

NEWS



リウマチ

Newsletter of Japan College of Rheumatology

2004. No.

3

September

有限責任中間法人

日本リウマチ学会

LETTER



非ステロイド性消炎・鎮痛剤 劇薬、指定医薬品

モービック®カプセル
5mg・10mg

Mobic® Capsules 5mg・10mg (メロキシカム製剤)

薬価基準収載

※効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については添付文書等をご覧ください。



発売元



第一製薬株式会社

資料請求先
〒103-8234 東京都中央区日本橋三丁目14番10号
ホームページアドレス
<http://www.daiichipharm.co.jp/>



Boehringer
Ingelheim

製造元

日本ベーリンガーインゲルハム株式会社
〒666-0193 兵庫県川西市矢間3-10-1

オ04

体外診断用医薬品

リウマチの新しい見方

マトリックスメタロプロテイナーゼ-3

MMP-3

関節滑膜の活動性把握に血清MMP-3

血清MMP-3

関節滑膜の増殖

リウマトイド因子
抗ガラクトース欠損IgG抗体等

免疫学的異常

X線写真

骨の破壊

CRP, 赤沈等

全身の炎症

健保適用

パナクリア®MMP-3「ラテックス」

血清中マトリックスメタロプロテイナーゼ-3測定用

販売元



第一化学薬品株式会社

〒103-0027 東京都中央区日本橋三丁目13番5号

製造元



第一ファインケミカル株式会社



越智隆弘 理事長
(独)国立病院機構 相模原病院 病院長

法人化後1年の歩みと今後の展望

日本リウマチ学会は広告可能な専門医を認定する資格を、厚生労働省から認められました。学会がその資格を得るための条件として、法人格を有することという条件があります。従来、日本リウマチ学会は任意団体でしたから、現在の理事会の最初の重要な仕事として法人化を進めました。理事会、事務局、更に必要な専門家の方々のお力を頂いて必要手続きを進めて、平成15年度の学会総会で承認を得て、有限責任中間法人の新たな組織として再出発いたしました。新たな組織の発足にあたって、国際化と情報化を前面に出しました。

国際化は本学会として何より大切と考えています。いくら優れた研究をしても、国内だけの発表では駄目で、国際的な批評をうけられるように、欧文論文での発表が必要です。欧文論文での発表の機会を広げる目的で学会誌を欧文にして、また学会誌の評価を高めるためにインパクトファクターを付けようと編集委員会が大変な努力をしているのは、その目的です。本学会の国際化ということで、本当に意味があるのは学会誌にインパクトファクターがつくことと認識しています。

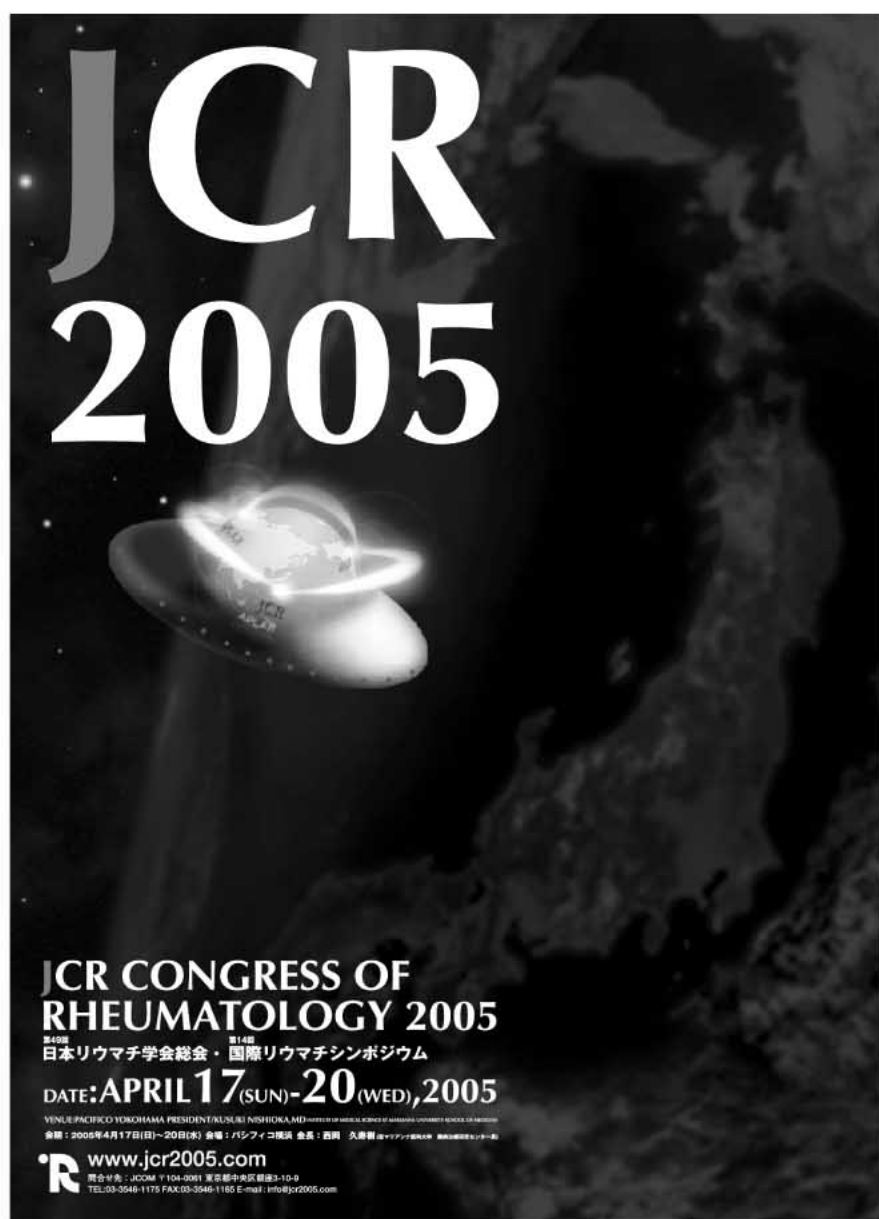
情報化について、本学会が広告可能な専門医を認定する資格を、厚生労働省から認められた件を例にあげたいと思います。この情報はすぐにトピックスとしてメルマガで流されました。その情報によって、今までの専門医（従来の認定医）は即、広告可能な専門医になると考えた方も多かったと思います。しかし、基本学会（内科あるいは整形外科学会）の上に建てられる第二群と呼ばれる日本リウマチ学会専門医の場合には、基本学会の専門医単位とのあいだの整合性を調整したうえで、広告可能な専門医を認定するわけです。学会からのメルマガでは、まるでそのまま広告可能と受け取れる情報が流れたことを御詫び申し上げます。振り返れば、「日本リウマチ学会認定医」の呼称を、専門医になることを望むあまりに、外に広告できないままに「専門医」の呼称にしてしまったことを反省しています。必要な情報を適時知り、正確に対応することは今後の時代に大切なことです。しかし、情報というのは不正確なままで流れたり、また勝手に思い込むことがあったりで、調整が非常に難しいことを思い知らされました。

今年度いっぱい、今まで6年間続けて役員（理事・監事）を務めたメンバーは役員から離れます。そして、新たな理事会での学会がスタートします。今の理事会は、法人化、更に専門医の問題の事務手続きに追われてきました。内容的には、次期からが有限責任中間法人の本当のスタートだと思います。内容のある国際化と情報化とを確立した素晴らしい学会になるように、全員の地道なご協力をお願い申し上げます。

第49回日本リウマチ学会総会・学術集会 第14回国際リウマチシンポジウム

会期:2005年4月17日(日)~20日(水)

会場:パシフィコ横浜



**JCR
2005**

JCR CONGRESS OF
RHEUMATOLOGY 2005

第49回
日本リウマチ学会総会・国際リウマチシンポジウム

DATE: APRIL 17(SUN)-20(WED), 2005

VENUE: PACIFICO YOKOHAMA PRESIDENTIAL BUILDING, 1-10-1 SHODENJI, NISHIKI-KU, YOKOHAMA-CITY, CANTON OF KANAGAWA, JAPAN

会期: 2005年4月17日(日)~20日(水) 会場: パシフィコ横浜 会長: 西岡 久雄 幹事: 佐藤 隆夫 事務局長: 佐藤 隆夫

R www.jcr2005.com

問合せ先: JCOM 〒104-0061 東京都中央区銀座3-10-9
TEL: 03-3546-1175 FAX: 03-3546-1185 E-mail: info@jcr2005.com



第49回リウマチ学会（JCR2005）開催にあたって

日本リウマチ学会員の皆様におかれましては、日々研究、診療に御活躍の事とお慶び申し上げます。

この度、第49回日本リウマチ学会総会・学術集会、第14回国際リウマチシンポジウム（JCR2005）を2005年4月17日から20日まで、パシフィコ横浜を主会場としてお世話させて頂く事になりました。

本学会を開催させて頂くにあたり、これまでのJCRの学術集会の組織編成に大胆な改革を加えさせて頂きました。というのも日本の学術集会にしばしば見られる事ですが、学会長の「好み」によってしばしば学会運営がなされ、時には「学会長のための学術集会」の様相を呈することもあります。JCRも法人化されたことにより、当然の事ですが年1回の学術集会総会は構成する学会員のたゆまない臨床や基礎研究の成果を発表するためのステージ、すなわち「学会員のための場」でなくてはなりません。そのためにプログラム編成、教育プログラム、また学会内容を評価する評価委員会など、主要な部分が学会長の手を離れ、それぞれの委員会を設け、運営して頂くことにしました。初めての試みなので、なかなか思うようには行きませんが、「学会員のためのステージの基盤作り」はどうしても避けられません。何卒学会員の皆様にも宜しくこの先も御支援頂きたいと思えます。

また、日本リウマチ学会(JCR)の理事会の承認を得て、学術集会総会をより一層国際化させ、米国リウマチ学会議(ACR)、欧州リウマチ学会議(EULAR)とともに、JCRが国際的に三極構造の一角を担うための基盤形成を目的としました。

ご存知のように、JCRはすでにアジア・太平洋地域において、他の加盟国と比較して質量ともに最大の組織であります。しかしながら、国際的な貢献度からみると、JCRにはより一層強力なリーダーシップを発揮することが海外から強く要求されております。私自身が今年9月からアジア太平洋リウマチ会議（APLAR）会長に選任されたこともあり、APLAR圏の諸国と緊密な関係を保ちながら、アジア太平洋地域でのリウマチ等の拠点形成を推し進める所存です。

この目的を達成する第一歩として、ACR、EULARと共通のステージで国際的に情報発信を行うため、リウマチ学会の組織編成、スポンサーシンポジウム、ビジネスブース等の企画に大改革を加えさせていただきました。

JCRがAPLARのコアとなることは内外も認めるところであり、APLAR会長という立場からもJCR2005の開催とその成功は極めて重要になってくると言えます。と言いますのも、APLAR加盟国には東南アジアや中東地域など数々の発展途上国が存在し、また東西南北の広範囲にわたり、人口も世界の4分の3が集中する一大マーケットを形成しているからです。しかしながら、矮小なpoliticsを一斉排除し、発展途上国の加盟国へは徹底した教育プログラム、そして先進国には学術的プログラムのより一層の充実を企てることによってAPLARの改革を進めたいと考えております。

また、現在抗リウマチ製剤を中心に東アジアを中心とする国際的な臨床治験ネットの確立を行うことを計画しており、この趣旨に沿って、EULAR、ACRから全面的な協力を取り付けています。JCRの強力な支援なしにはAPLARの発展はあり得なく、逆にJCRが積極的にAPLARを発展させることは、直ちにJCR自身の強力な発展と利益につながります。

この様な観点からも、何卒JCR2005への御支援の程を宜しくお願い申し上げます。詳細についてはホームページ (<http://www.marianna-uac.jp/ims/JCR2005/JCR2005.htm>) を御参考にしてください。



西岡 久寿樹
第49回日本リウマチ学会
総会・学術集会 会長

第49回日本リウマチ学会総会・学術集会(JCR) 第14回国際リウマチシンポジウム(IRC)

第49回日本リウマチ学会総会・学術集会 第14回国際リウマチシンポジウム

会 期：2005年4月17日(日)～20日(水)
 会 場：パシフィコ横浜
 〒220-0012 横浜市西区みなとみらい1-1-1
 TEL:045-221-2121/FAX:045-221-2136
 主催(連絡先)：会長/西岡 久寿樹
 学会事務局：聖マリアンナ医科大学 難病治療研究センター
 中村 洋
 〒216-8512 神奈川県川崎市宮前区菅生2-16-1
 TEL：044-977-8111
 (内線4120) /FAX：044-977-9165
 E-mail：nanchiken@marianna-u.ac.jp
 運営事務局：株ジェイコム (JTB Communications, Inc.)
 〒104-0061 東京都中央区銀座3-10-9
 共同ビル(銀座3丁目) 2F
 TEL：03-3546-1175/FAX：03-3546-1165
 E-mail：jcr2005@jtbcom.co.jp

13：00～18：30 各種委員会・理事会
 19：00～ 会員懇親会

4月18日(月)～4月19日(火)

08：00～19：00 第49回日本リウマチ学会総会・学術集会
 11：00～12：30 第14回国際リウマチシンポジウム

4月20日(水)

08：00～18：00 第49回日本リウマチ学会総会・学術集会
 11：00～12：30 第14回国際リウマチシンポジウム
 15：00～18：00 市民公開講座

参加登録費：事前登録(2005年2月28日まで) 15,000円
 当日登録 17,000円

演題募集要項：

発表形式：原則としてポスターディスカッション形式
 (ポスター掲示とプロジェクター利用の発表)となります。投稿演題の中から、口演
 (ワークショップ、プレナリー演題)をプログラム委員会が選抜します。

演題登録方法：ホームページからのインターネット登録のみの受付となります。

ホームページアドレス

<http://www.jcr2005.com/>

登録期間：2004年9月末～2004年11月18日(正午)

開催日程：4月17日(日)

08：30～17：00 アニュアルコースレクチャー
 ーリウマチ性疾患・膠原病治療の最前線ー
 1. 関節リウマチの診療ガイドライン
 2. 生物学的製剤の新展開
 3. SLEの最新の治療
 4. 血管炎症候群の最新の治療
 5. 骨粗鬆症の治療
 6. 人工関節の進歩
 7. 変形性関節症の病態と治療

◆有限責任中間法人 日本リウマチ学会総会開催地および会長氏名

回	開催日	開催地	会長名	回	開催日	開催地	会長名
1	S.32.4.20	東京・上野松坂屋ホール	三沢 敬義	27	S.58.6.1～2	京都・京都会館他	浜島 義博
2	S.33.6.29	東京・東大医学部本館大講堂	三沢 敬義	28	S.59.5.24～25	東京・京王プラザホテル	御巫 清允
3	S.34.6.27	大阪・田辺製薬5階講演場	清水源一郎	29	S.60.5.9～10	福岡・福岡市民会館他	延永 正
4	S.35.4.16～17	東京・葉葉健康保険永田町会館大会議室	大島 良雄	30	S.61.5.29～30	横浜・神奈川県民ホール他	山本 真
5	S.36.5.14～15	京都・京大内科講堂	鈴江 懐	31	S.62.5.27～29	東京・全日空ホテル	宮本 昭正
6	S.37.5.12～13	別府・別府市民会館	矢野 良一	32	S.63.6.6～8	仙台・宮城県民会館他	京極 方久
7	S.38.5.23～24	東京・日本都市センターホール	三方 一沢	33	H.元.5.25～27	東京・京王プラザホテル	水島 裕
8	S.39.5.20～22	岡山・ホテルニューオカヤマ他	児玉 俊夫	34	H.2.5.29～31	大阪・大阪ロイヤルホテル	田中 清介
9	S.40.3.12～13	京都・京都会館	前川孫二郎	35	H.3.4.25～27	東京・日本都市センターホール他	大國 真彦
10	S.41.4.29～30	仙台・宮城県民会館	杉山 尚	36	H.4.5.26～28	千葉・東京ベイヒルトンホテル	安倍 達
11	S.42.5.24～25	東京・国立教育会館	森崎 直木	37	H.5.5.22～24	名古屋・名古屋国際会議場	長屋 郁郎
12	S.43.5.11～12	福岡・福岡市民会館	天児 民和	38	H.6.4.27～29	東京・日本都市センターホール他	廣瀬 俊一
13	S.44.5.16～17	東京・国立教育会館	川上 保雄	39	H.7.5.10～12	大阪・大阪国際文化センター他	小川 亮恵
14	S.45.5.8～9	久留米・石橋文化センター	木村 登	40	H.8.5.23～25	福島・福島県文化センター他	粕川 司
15	S.46.4.3～4	東京・私学会館	大高 裕一	41	H.9.5.8～10	名古屋・名古屋国際会議場	松井 宣夫
16	S.47.5.12～13	芦屋・芦屋市民会館	柏木 大治	42	H.10.5.7～9	東京・東京国際フォーラム	柏崎 禎夫
17	S.48.5.11～12	名古屋・名古屋市民会堂	日比野 進	43	H.11.6.3～5	札幌・ホテルロイトン札幌	吉木 敬
18	S.49.5.30～31	京都・京都会館	諸富 武文	44	H.12.5.13～15	横浜・パシフィコ横浜	腰野 富久
19	S.50.4.10～11	京都・府立医大記念会館他	深瀬 政市	45	H.13.5.14～16	東京・京王プラザホテル	橋本 博史
20	S.51.6.11～12	東京・国立教育会館	塩川 優一	46	H.14.4.22～24	神戸・神戸国際会議場	越智 隆弘
21	S.52.5.13～14	大阪・大阪ロイヤルホテル	七川 敬次	47	H.15.4.24～26	東京・京王プラザホテル	狩野 庄吾
22	S.53.6.6～7	東京・国立教育会館他	堀内 淑彦	48	H.16.4.15～17	岡山・岡山コンベンションセンター他	井上 一
23	S.54.5.31～1	東京・日本都市センター	本間 光夫	49	H.17.4.17～20	横浜・パシフィコ横浜	西岡久寿樹
24	S.55.5.13～14	鹿児島・県文化センター他	寺脇 保	50	H.18.4.19～22	長崎・長崎ブリックホール他	江口 勝美
25	S.56.5.21～22	神戸・神戸文化センター他	広畑 和志	51	H.19.4.26～29	横浜・パシフィコ横浜	龍 順之助
26	S.57.5.14～15	岡山・市民文化センター他	大藤 真				

第49回日本リウマチ学会総会・学術集会プログラム委員会

委員長	山本 一彦先生	東京大学医学部 アレルギーリウマチ内科
副委員長	田中 栄先生	東京大学医学部 整形外科
"	中島 利博先生	聖マリアンナ医科大学 難病治療研究センター
委員	川合 眞一先生	東邦大学医学部附属大森病院 膠原病科
"	宮坂 信之先生	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 膠原病・リウマチ内科学
"	小池 隆夫先生	北海道大学 第二内科
"	住田 孝之先生	筑波大学臨床医学系内科 膠原病・リウマチアレルギー
"	横田 俊平先生	横浜市立大学 小児科学
"	龍 順之助先生	日本大学医学部 整形外科
"	中村 耕三先生	東京大学医学部 整形外科
"	中村 利孝先生	産業医科大学 整形外科学
"	中村 孝志先生	京都大学医学部 整形外科学
"	吉川 秀樹先生	大阪大学 整形外科
"	能勢 眞人先生	愛媛大学医学部 病理学第二

第49回日本リウマチ学会総会・学術集会運営委員会

委員長	西岡久寿樹先生	聖マリアンナ医科大学 難病治療研究センター
副委員長	龍 順之助先生	日本大学医学部 整形外科
委員	井上 和彦先生	東京女子医科大学附属第二病院
"	猪熊 茂子先生	都立駒込病院 アレルギー膠原病科
"	越智 隆弘先生	独立行政法人大阪大学医学部
"	小池 隆夫先生	北海道大学 第二内科
"	腰野 富久先生	国際医療福祉大学附属熱海病院 整形外科
"	佐々木 毅先生	東北大学医学部 第二内科
"	澤井 高志先生	岩手医科大学医学部 病理学第一講座
"	竹内 勤先生	埼玉医科大学総合医療センター 第2内科
"	鳥巢 岳彦先生	大分大学 整形外科
"	中村 孝志先生	京都大学医学部 整形外科学
"	橋本 博史先生	順天堂大学 膠原病内科
"	藤井 克之先生	東京慈恵会医科大学 整形外科
"	松井 宣夫先生	名古屋市総合リハビリテーションセンター
"	宮坂 信之先生	東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 膠原病・リウマチ内科学
"	三森 経世先生	京都大学医学部 免疫・膠原病内科
"	山本 一彦先生	東京大学医学部 アレルギーリウマチ内科
"	吉野 横一先生	日本医科大学リウマチ科
"	山本 純己先生	松山赤十字病院 リウマチセンター
"	横田 俊平先生	横浜市立大学医学部 小児科学

抄録選定委員会 各領域の委員長

- 1) RAの臨床(治療を除く) [川合眞一/東邦大学医学部附属大森病院 膠原病科]
- 2) RAの治療 [宮坂信之/東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 膠原病・リウマチ内科学]
- 3) 膠原病の病態と治療 [小池隆夫/北海道大学 第二内科]
- 4) 自己免疫と疾患 [住田孝之/筑波大学臨床医学系内科 膠原病・リウマチアレルギー]
- 5) 小児のリウマチ性疾患 [横田俊平/横浜市立大学 小児科学]
- 6) 関節外科 [龍順之助/日本大学医学部 整形外科]
- 7) 脊椎外科 [中村耕三/東京大学医学部 整形外科]
- 8) 骨粗鬆症(基礎・臨床) [中村利孝/産業医科大学 整形外科学]
- 9) 変形性関節症(基礎・臨床) [中村孝志/京都大学医学部 整形外科学]
- 10) リウマチ性疾患の基礎:分子とシグナル [吉川秀樹/大阪大学 整形外科]
- 11) リウマチ性疾患の基礎:動物モデル [能勢眞人/愛媛大学医学部 病理学第二]

EULAR大会に出席して

欧州リウマチ学会議 (EULAR)

Annual European Congress of Rheumatology 9 - 12 June 2004
at the International Congress Centre (ICC) Berlin, Germany



EULAR報告記

亀田 秀人

埼玉医大総合医療センター 第2内科



6/9-12の4日間、ベルリンで開催されたEULAR 2004に昨年に引き続いて参加しました。日本人の参加者は依然少ないものの、本年は世界各国から9000人以上が参加したそうです。

全体の印象としてRAに対する生物製剤治療は昨年ほどの活気はなく、すでに定着した感がありました。治療の目標はRAの寛解となり、新規の治療では最高用量で関節破壊のスコアが僅かでも改善を示さないと満足しないかのようなようでした。本年はrituximabの有効性、BEST trialの結果、TEMPO trialの2年間の成績が報告されました。RA治療が大きく進展した

EULAR大会に出席して

●EULAR報告記●

亀田 秀人

埼玉医大総合医療センター 第2内科

●EULAR体験記●

池田 啓

千葉大学病院アレルギー・膠原病内科
千葉大学大学院細胞治療学

●EULAR印象記●

西岡久寿樹

聖マリアンナ医科大学教授 難病治療研究センター長

ことに伴って、OAの病態や治療に対する関心は一層の高まりを見せています。尿中CTX-1や血清ヒアルロン酸の測定が股関節OAのX線所見進行を予測するマーカーとして有用であることや、IL-1の主に産生を阻害するdiacereinのOA治療薬としての可能性が紹介されました。

SLE、強皮症、筋炎などのいわゆる“内科的”膠原病とのバランスが以前と大きく変わっているのは日本も同様ですが、SLEと強皮症のセッションはある程度の時間を占め、SLEに対してCTLA4-Igあるいはrituximabのシクロホスファミドとの併用が有望であることやinfiximab投与の効果、強皮症に対するbosentanのtrial（肺線維症に対するBREATH-2、手指・足趾潰瘍に対するRAPID-2）やASTIS trial（自家骨髄移植とシクロホスファミドパルス静注療法の比較試験）などの進行状況、また最新の合併症対策などが報告されていました。一方、筋炎は日本に比べて演題が少なく、線維筋痛症と合同のセッションでした。重篤な肺病変が欧米で少なく大きな問題とされないのは、日本における強皮症腎のようなものなのでしょうか。こうしたことは血管炎など他の疾患にもあてはまることで、欧米の評価法や治療指針をそのまま転用するのではなく、日本の実情に即した評価法や治療指針を作成し、日本でのエ

ビデンスに基づいて改訂していく必要性を改めて感じました。血管炎ではEUVAS（The European vasculitis study group）の最新情報としてCYCLOPS（ANCA関連血管炎に対するパルス静注と連日経口のシクロホスファミドの有用性比較試験）の状況などが報告されました。

テイラーメイドの医療が注目されているように、疾患の多様性（heterogeneity）に対する認識がこれまで以上に高まっていました。本邦でも自己抗体の詳細な解析（エピトープなど）による疾患の亜分類化が試みられていますが、遺伝子チップによる遺伝子発現のパターンからRAやSLEを亜分類する検討が進められていました。

ベルリンは日本の多くの都市より治安が良さそうだったので、学会が始まる前の早朝時間を利用して十分に観光も出来ました。一部黒く焼けこげているカイザー・ヴィルヘルム教会がツォー駅の近くに建っており、近くで見ると大魔神のようで最も印象的でした。来年はウィーン、以後アムステルダム、バルセロナ、パリと予定されており、考えただけで今からワクワクしてきます。

EULAR体験記

池田 啓

千葉大学病院アレルギー・膠原病内科
千葉大学大学院細胞治療学



今年是非EULARに参加しようと心に決めていました。国内でろくに発表も出来ていないのにとの批判の声も聞こえてきそうでしたが、私の気持ちは既にベルリンに向いていました。ポスター演題を希望したのに口頭発表になってしまったこと、参加費用が恐ろしく高かったこと（early registration feeで800 EURO）、ホテルが何処もEULARの期間中だけ料金が通常の倍以上（！）であったことなど予想外のこともありましたが、6月8日に無事ベルリン行きの飛行機に乗り込むことが出来ました。

ベルリンの街はとても綺麗で安全な印象を受けました。さほど大きな街ではないので地下鉄/バス（EULAR参加者は無料）および徒歩で主要な見所は網羅出来ました。食べ物は基本的には肉とじゃがいもばかりでしたが、Weiswurstとい

う白いソーセージはとても美味でした。何よりも夜8時を過ぎても尚明るい6月のベルリンの路上で飲むビールは最高でした。

さて、EULARの学術集会は全体的に実際の治療/診断に直結した実践的な臨床研究の発表が多く、またトピックの画像診断（超音波、MRI、capillaroscopy）の実演もあり、非常に興味深く勉強になりました。私は筋炎/線維筋痛症のセッションで発表を行い、発表自体は予定通り行えたのですが、予想通り質疑応答で苦戦しました。最初の質問者はインド系の人であり、いきなり何を言っているのか分からず座長（スイス人とチェコ人）に通訳してもらった始末。フロアおよび座長からの残りの質問には何とか自力で答えたものの、研究の真意を充分には伝えきれなかった気がします。アジア-欧米間の、多発筋炎/皮膚筋炎という疾患の人種差の為だろうと自分を慰めました。

今回のEULARで私は初めての海外の臨床学会での発表を経験し、多くの演題から臨床研究のヒントを得ることが出来、留学予定のシンガポールおよびイギリスから来ている医師らと話し合え、少ない日本からの参加者と普段と異なる視点で話が出来ました。軽いきっかけでEULAR参加を決意した私ですが、結果的に非常に多くの収穫を得ることが出来ました。今後EULARの開催地は、ウィーン、アムステルダム、バルセロナ、パリと魅力的な場所が続きます。今後もEULARに参加を続け、より多くの内外の研究者と交流がもてることを期待しております。

EULAR大会に出席して

EULAR印象記

西岡 久寿樹

聖マリアンナ医科大学教授
難病治療研究センター長



大改革を達成したEULAR

—進化するEULAR—

本年6月9日からベルリンでEULAR2004が開催された。合計9650名の参加者がEU諸国のみならず、ロシア、東欧圏、またアフリカ諸国からの研究者などが参加し、会場はACRとはまた異なった雰囲気であった。数多くの学会発表がされたが、過去7回EULARの会議に出席している筆者は、今回のベルリン大会は質量共に過去の学会の水準をはるかに上回っていた。

この学会では、初日に筆者は関節リウマチの病因論に関するシンポジウムのコーディネーターと司会を担当した。最新のリウマチの病因に関して、T細胞、滑膜細胞、軟骨細胞の3つの面から各国の優れた研究が発表されたが、特筆すべきことはいずれも治療学を視野においた基礎研究の発表である。ドイツのKalden教授が強力な指導力によってEULARの大改革を数年前から企み、EU諸国のAnnual meetingとして基盤を作った。そのプロセスを目の当たりに触れてきたが、さらにオーストリアのSmolen教授が本年度からEULARの会長に就任し、その学術プログラムはより一層充実して来たと言える。筆者は毎回のように何らかの形で招聘を受けているが、JCRの学術集会にも毎年参加して頂いているKalden教授からSmolen教授にEULAR会長がバトンタッチされ、特に今回はロシアやポーランド、ハンガリーなど、東欧圏からの数多くの優れた演題がポスターセッション等に見られたことは特筆に値する。

—基礎研究でもEULARは確実に進歩—

イギリスやスイス、ドイツ、オーストリアを中心に

EULARが発展して来たが、スペイン、オランダ、ベルギー、イタリア諸国からも臨床的な面だけでなく、関節リウマチや変形性関節症や骨粗鬆症等に関する優れた基礎的研究に関する発表が充実して来た。これまで国際的に日本のリウマチ学の研究は分子免疫、滑膜細胞、破骨細胞、さらにはゲノム解析やプロテオーム解析において一歩リードしているがEU加盟の多くの国からの優れた研究は日本の研究を刺激する。これらの成果は筆者の長年の友人であるチューリッヒ大学のGay教授の指導力や、Maini教授らの生物学的製剤を中心とする治療学の研究の成果が大きな裾野を拡大したとも言える。最近ではフランスのBerenbaum教授率いる優れた研究陣がこれに加わり、一層充実して来た。これはEULARの大きな改革の成果である。

—APLAR、EULAR、そしてJCR—

筆者は今年9月からAPLARの会長を務めさせて頂くことになっているが、責任を痛感している。今回の学会の間にAPLARの主要国のメンバーが集まり、APLARの今後の方針について会議が開催された。

本年9月の韓国の済州島でのAPLAR会議、2006年のマレーシア クアラルンプールの会議は今後のAPLAR改革を進める上で極めて重要な会議になる。APLAR加盟国には東南アジアや中東地域など数々の発展途上国が存在し、また東西南北に広範囲にわたり、人口も世界の4分の3が集中するAPLARをどのようにステアリングしていくかは容易ではない。しかしながら、矮小なPoliticsを一斉排除し、発展途上国の加盟国へは徹底した教育プログラム、そして先進国には学術的プログラムのより一層の充実を企てることによってAPLARの改革を進めたい。

またアジアの臨床治験ネットの確立を行い、APLAR財政基盤の充実を企てることも当面の目標としたい。この点については加盟国の賛同を得、またこの主旨に沿って、EULAR、ACRから全面的な協力を取り付けた。一方APLARの中核であるJCRの強力な支援なしにはAPLARの発展はあり得ない。逆にJCRが積極的にAPLARを発展させることは、直ちにJCR自身の強力な発展と利益につながることは言うまでもない。このような戦略によりACRが強力な世界的リーダーシップを築き上げた事を見れば一目瞭然である。EULARのベルリン大会の飛躍はまさにJCRのより一層の国際化の必要性を痛感させるものであった。



横田 俊平
横浜市立大学小児科

子どもに吹く風〜小児リウマチの昨今

わが国では、男は仕事に忙しい。最近、男も育児休暇をとる人が出てきて、世の中、随分変わってきたことにはいるが、これもごくごく特殊な例で、猫の体毛全部に対して1〜2本の抜け毛に相当する程度である。その結果、子育てはすべて母親任せということになる。医師の家庭もそうであるし、会社員の家庭も、公務員の家庭もそうである。子どもに関する政策を決定したり、医療の中で子どもに関わる諸問題を解決しようとする場合、その多くは男たちの仕事として行われるので、関心のない子どもに関する事柄は必要最小限にとどめられてしまう傾向にある。そしてそのことは問題にもならない。子どものことだから、である。公務員は2年たてば配置換えで別の部署に移動してしまうので、その間なんとか形ができればよい。例えば小児救急が大きな問題として浮上してすでに6〜7年はたつのだが、依然解決の兆しさえみえない。これが大人の問題であればすでに首長の首の2つや3つは飛んでいることだろう。

しかし最近「1.29」という数字がわが国の屋台骨を揺るがしている。一組の夫婦が生涯に育て得る子どもの数である。このままでいくと100年後には日本人はこの世からひとりもいなくなる計算だそうである。これでは子どもを大切にしなければならないと誰もが考えるだろう、そう小児科医は思う。子どもの問題を解決するよい風が吹いてきた、そうも思うのである。だが、2〜3年前厚生省予算23兆円のうち半分以上は老人関係で、15歳以下の子ども関連予算はわずかに6%に過ぎなかった。これではせつかくの良風も萎えてしまう。あるいは台風となって厚労省を吹き飛ばして欲しい、と願うような危険な思想が台頭しないとも限らない。

さて、小児リウマチである。約100万人と言われる関節リウマチや変形性関節症に対して子どもの慢性関節炎は1万人と推定される。数からすればとるに足らないものではある。しかしわがリウマチ学会は、学術集会には必ず小児関連のシンポジウム、ワークショップの企画を立てて下さる。だけでなく、理事会にも加えて戴き日常的な問題の解決に力を貸して下さる。私たち小児リウマチ医もそれに答えるべく、わが国の小児リウマチの現状の改善に力を尽くそうとしている。

小児リウマチ医は全国で20〜30名程度の人数しかいない。しかも都市に集中して局在している。このためリウマチ性疾患は、診断、治療の地域格差がきわめて著しい疾患という不名誉な状況にある。そこであるグループは他県にサテライト診療施設を設け交代で定期的診療を続けており、小さな努力ではあるが大きな成果を挙げている。またあるグループは東海地方に新しく設立された「あいち小児保健医療総合センター」の賛助を得てリウマチ外来を開設し、近隣県のリウマチ性疾患患児の集中を図り、同時にその地方の大学の若手小児科医を小児リウマチ医として育成してやがてこども病院のリウマチ医として赴任させる方法で東海地方の小児リウマチ性疾患に対する医療格差の解消を図ろうとしている。同様の試みは、福島以北に小児リウマチ医がいないことに鑑み、仙台に新設された「宮城県立小児医療センター」に対しても行われている。残りは北海道、北陸、中国・四国である。

病院のこども憲章 (Lyden, Netherland, 1988) には、「子どもたちは(病院において)、子どもたちや家族の身体的、情緒的、発達のニーズに応えられる訓練を受け、技術を身に付けたスタッフによってケアされるべきである」と書かれている。また「子どもたちは(病院において)、年齢や症状にあった遊び、レクリエーション、教育に完全参加すると共に、ニーズにあうよう設計され、しつらえられ、スタッフが配属され、設備が施された環境に置かれるべきである」とも書かれている。私たち小児リウマチ医の存在を支えてくださっているリウマチ学会会員の小児リウマチに対する考え方が、そのままこの国のおとな社会全般に広がってくれば、たとえ「1.29」という数字であっても母親たちは安心して子育てに励めるであろうし、こども憲章の理念を実現することも困難ではない。日本の男たちは、そろそろこの辺で「子どもあつての社会である」との認識に立ち、子どものための政策立案に取り組む世の中にならなければならない。それにしてもリウマチ学会は、先端を走っていると思う。

Shoichi



Kokubun

国分 正一

東北大学大学院整形外科学分野教授

学術集会のあり方： 日本整形外科学会学術総会における試み

去る5月、神戸ポートアイランドでの第77回日本整形外科学会学術総会の会長を務めました。標語を「信頼と希望の整形外科―地域と世界のために」、基調を「整形外科とグローバル化―地域と世界のために」として、時代が求める学術総会を目指した大胆な改革を試み、幸いに多くの会員から「新時代の到来を実感した」、「画期的な総会だった」等の讃辞を得ることができました。表記タイトルでの原稿依頼を頂きましたので、それに応えて日本整形外科学会（日整会）が取り組んだ改革を紹介させていただきます。

日整会は内科、外科学会に次ぐ会員数2万余の学会です。学術総会は、その規模が年々大きくなっているにも拘わらず、最近まで会長の都市で開催し、企画、財政の全てを会長とその同門に委ねてきました。一方で、多くの会員がこうした伝統的な運営に疑問を抱き始めていました。そこで日整会は理事会内に「学術集会部会」を設け、平成14年の春に「学術集会のあり方」に関して提言を発表しました。その提言を可及的に実現するよう試みたのが今年の学術総会であったわけです。改革の目玉は仙台でなく神戸での開催と昨年9月のプログラム企画委員会の設置でした。

神戸での開催は参加する会員の便宜を考慮しての決断でした。学術総会は会長や同門の「名誉」のためでなく、日整会の発展と会員の利益が優先されるべきです。また、神戸は海外からの参加にも便利です。蓋を開けると、国内の参加者は約5,300名で例年より約1,000名多く、海外からの参加者は30カ国から約200名で、その半数が自費参加でした。

プログラム企画委員会を設置した結果、これまでと違って会長の裁量が制限されることになりましたが、何の不都合も生じませんでした。会長の構想を討議して採用となればオーソライズされ、会長は責任の重圧から解放されます。また、運営の基本的な枠組みが決定され、それが継続されることとなります。現に、来年の学術総会の企画にも本委員会が有効に機能しています。

今や日整会は学術団体としてのみ機能するのではなく、会員に生き甲斐を保証する組織であるべきです。従って、学術総会は学術知識の交換の場とともに、会員が一体感を肌で感じ、会員であることを誇りに思える場であることが必要です。こ

の考えに基づいて、開会式に国旗掲揚と国歌「君が代」の斉唱を取り入れました。プログラムをシンプルで、各セッションを一斉に終え15分間の長めの休憩、移動に入るようにしました。会員は参加者が多いこと、即ち日整会が大きいことを確認して嬉しくなった筈です。また、“お祭り”を演出し、“くつろぎの場”を提供することに努めました。それらはバナーの飾り、仙台から東北色を持ち込んだ懇親会や、華やかさのある器械展示等でした。

財政が運営に欠かせません。同門や関連病院、企業からの寄付に頼らずに、財政の自立とガラス張りの会計を図ることにしました。そこで、海外からの招待者には謝金を差し上げない、航空券はエコノミー・クラスないし自費でお願いし、晩餐会の1万円会費制、レディース・プログラムの廃止とオプション・ツアー化に踏み切りました。

学術総会のグローバル化とhub meeting化を押し進めました。一昨年、昨年と1st、2nd announcementをポスターと一緒に海外に配布し、若手に向けたフェローシップを設けたところ、演題応募が沢山あり、会員のものと合わせて全一般演題の39%に相当する英語口演126題（採用率57%）を組み合わせることができました。会員には日本語口演のスライドとポスターも全て英語で作成して頂きました。加えて、75名もの世界的なリーダーや近隣国の学会のトップを講演、シンポジウム、教育講演に招待しました。こうして国際学会に相応しいものとなり、「これなら同僚にも来年の参加を勧める」とまで言って貰えたのでした。

一方で、日本語一般演題の採用を大胆に厳しくしました（口演198題：採用率22%、ポスター400題：採用率55%）。その狙いは会場数を少なくし、優れた発表を大人数で聴き、十分に討論する原則に立ち返る、専門分野以外のプログラムに耳を傾ける時間の余裕を生み出す、参加者減を恐れて不採用を控える方策から大転換する、でした。実際に、発表者は沢山の聴衆で自分の発表を誇りに思えた筈です。

現在、プログラム企画委員会が学術総会評価のアンケートを行っています。こうした会長以外からの評価が一層の発展に繋がる筈です。

East Asia Group of Rheumatology (EAGOR)

開催のお知らせ

1. EAGOR開催の経緯

1997年より日本と韓国のリウマチ医の交流の場としてはじまりましたKorean Japan Combined Meeting of Rheumatology (KJCMR)に中国の参加を呼びかけ仰ぎ、名前も新たに2005年日本で第一回を開催することになりました。

KJCMRは1997年第一回を韓国で行い、以後
1998年第二回：京都（会長 塩沢俊一教授）
1999年第三回：濟州島（会長 Dong-Jip Kim教授）
2001年第四回：東京（会長 山本一彦教授）
2003年第五回：ソウル（会長 Ho-Youn Kim 教授）
と開き、当初の目的をはたしました。

今後は東アジア地区のリウマチ学の向上と相互の友好を深めることを目的として、APLARの行われない年に持ち回りでEast Asia Group of Rheumatology (EAGOR) の会を開催する予定です。

2. 組織

世話人（敬称略・五十音順）：

石田 博、江口 勝美、尾崎 承一、北島 勲、木村 友厚、後藤 眞、塩沢 俊一、住田 孝之、
高崎 芳成、竹内 勤、能勢 真人、蓮沼 智子、原 まさ子、広畑 俊成、三森 経世、山本 一彦

顧問（敬称略・五十音順）：

安倍 達、東 威、粕川 礼司、京極 方久、小池 隆夫、長屋 郁郎、
西岡久寿樹、橋本 博史、松井 宣夫、水島 裕、宮坂 信之

3. 第一回 East Asia Group of Rheumatology開催予定

日時：2005年5月28日（土）
会場：東京 京王プラザホテル
会長：原まさ子（東京女子医科大学膠原病リウマチ痛風センター教授）
演題募集：2005年3月1日～3月31日

第一回目はまず中国に働きかけ、組織づくりをしっかりとするための一歩となります。中国のリウマチ事情を知る会員の先生方は少ないことから、興味深い会となる様、努力いたします。どうぞ協力のほどをお願い申し上げます。

第1回東アジアリウマチグループ (EAGOR)
会長 原 まさ子（東京女子医科大学膠原病リウマチ痛風センター 教授）

社員総会議事録

2004年4月15日 午後1時10分より岡山市駅元町14-1 岡山コンベンションセンター3階 コンベンションホールにおいて、社員総会を開催した。

社員総数	8,447名
(定款第24条に基づく定足数)	1,690名)
総社員の議決権	8,447個
出席社員の数(委任状出席を含む)	1,798名
この議決権の個数	1,798個

上記のとおり出席があったので、本社員総会は適法に成立した。

定款第16条に基づき理事長越智隆弘が議長となり、開会を申し直ちに議事に入った。

第1号議案「2003年度事業報告書承認の件」

理事長が事業報告を行い、異議なく承認された。

第2号議案「2003年度決算報告承認の件」

橋本会計担当理事より、当期(自平成15年5月26日至平成16年2月29日)の決算につき下記書類に基づき説明をし承認を求めたところ、異議なく承認された。

- ・貸借対照表
- ・損益計算書
- ・損失処理案

ついで橋本会計担当理事は、監事猪熊茂子及び監事宮坂信之が、上記の書類につき綿密に調査したところ、いずれも正確かつ適当であることを認めた旨を報告した。

総会は、以上により別段の異議なくこれを承認可決した。

第3号議案「2004年度予算案承認の件」

橋本会計担当理事より予算案を提案し承認を求めたところ、異議なく承認された。

第4号議案「役員(理事・監事)の選任の件」

議長は、理事及び監事の全員が定款の規定により本定時社員総会終結と同時に任期満了し退任することになるので、理事及び監事改選の必要がある旨を述べ、議長は下記の候補者につき選任の可否を議場に諮ったところ、満場一致をもってこれに賛成したので、下記のとおり可決確定した。

理事 井上 和彦	理事 井上 一
理事 江口 勝美	理事 越智 隆弘
理事 小池 隆夫	理事 腰野 富久
理事 佐々木 毅	理事 澤井 高志
理事 竹内 勤	理事 鳥巢 岳彦
理事 中村 孝志	理事 西岡久壽樹
理事 橋本 博史	理事 藤井 克之

理事 松井 宣夫	理事 三森 経世
理事 山本 一彦	理事 山本 純己
理事 横田 俊平	理事 吉野 慎一
理事 龍 順之助	

(以上21名 五十音順)

監事 猪熊 茂子	監事 宮坂 信之
----------	----------

(以上2名 五十音順)

第5号議案「日本リウマチ学会規則等の一部改正の件」

西岡副理事長が、定款運用規則・役員選任内規・評議員内規・名誉会員内規・学会長選出内規・日本リウマチ学会賞・奨励賞規約の一部改正案について説明を行い承認を求めたところ、異議なく承認された。

引き続き、龍専門医資格認定担当理事から専門医制度規則・同施行細則およびリウマチ専門医の認定に係わる移行処置に関する内規について説明を行い承認を求めたところ、異議なく原案のとおり承認された。

第6号議案「新評議員の選出報告」及び第7号議案「功労会員の選任報告」、第8号議案「第51回学会長の選出承認」の件について報告し、承認を受けた。第51回学会長に選出された龍順之助先生から挨拶があり、予定の議決事項および承認事項の議事を全て終了した後、日本リウマチ学会賞が第48回学術集会井上会長から3名に授与された。

以上をもって本総会の議案全部を終了したので、議長は閉会の挨拶を述べ、午後1時50分散会した。(資料添付:2004年度定時社員(会員)総会資料)

注:総会資料は、事前に全会員の先生には送付済み

以上の議決を明確にするため、本議事録を作成し、出席理事全員が次に記名押印する。

2004年4月15日

有限責任中間法人日本リウマチ学会 社員総会

注:原本には、議長(理事長)越智隆弘以下18名の理事の記名押印あるも省略



各委員会報告

2004年度有限責任中間法人日本リウマチ学会定時評議員会において各委員会から「2003年度活動状況及び2004年度事業計画」を報告した。(2004年4月14日(水)午後5時から、岡山市駅前「ホテルグランヴィア岡山」において開催された評議員会議事録から転記、一部括弧書きで注記を入れた。)

編集委員会報告を竹内勤理事より行った。

- ①和文誌「リウマチ」は、43巻4号をもって廃刊とし英文誌に特化し、原著及び症例報告は英文誌Modern Rheumatologyへの投稿を奨励して英文誌のさらなる充実を図っていくことにした。
- ②和文誌「リウマチ」に代わる情報伝達媒体としてニュースレターが発刊されることになったが、これは情報

化委員会が担当することになった。

- ③英文誌MRをNational Library Medicineに掲載することを目標にしてきたが今回の審査では見送られる結果となった。
- ④その対応策としてMRの発刊を4回から6回にすることを17年度から計画していたが、前倒しで16年度から実行に移すことにした。
- ⑤オンライン投稿、査読を推進し、International Editorial Board Memberを加えて、更に査読システムを国際的なものに充実させていく。
- ⑥発行経費の補充を図るため広告掲載を行う。

医学用語委員会報告を佐々木毅理事より行った。

5年に1度用語の見直し、改訂を行うことで検討を加えてきた「リウマチ学用語集」改訂第3版を本年3月1日発行した。今後、用語の統一と指導、教育に当たって利用頂きたい。又この学術集の期間中用語集を販売するが、その後での入手についてはリウマチ学会事務局に問い合わせをされたい。

社会保険委員会報告を吉野禎一理事より行った。

本年4月保険医療費の改訂が行われた。リウマチ学会は、内保連及び外保連に加盟しており、今後はこの保険連合を通して要求することになる。内科系の診断技術料等、外科系の手術料等の要望に当たってはデータを添付することが要求されている。

調査研究委員会報告を井上和彦理事より行った。

- ①RAの死因・人工関節の評価・RAの骨粗鬆症について小委員会で検討しているが、今後評議員の先生方にアンケートを出す予定であるので協力をお願いします。
- ②厚生労働省の要請により、リウマチ薬の評価ガイドラインの作成に当たっている。
- ③静注用フローランの在宅療法、エタネルセプトの在宅医療について厚生労働省に要望書を提出した。
- ④リウマトレックスの用量拡大については海外データを引用して、引き続き要望していく。
- ⑤リウマトイド因子の測定値が施設間で格差が大きいいため、測定調査小委員会を設置して調査を実施する。

専門医制度委員会報告を山本一彦理事より行った。

- ①2003年度 指導医の新規(26名)及び更新(146名)の認定を行った。
- ②リウマチ学会が認定する研修会、講演会(87研修会等)及び研修単位(122単位)の認定を行った。
- ③リウマチ専門医の資格認定基準の整備を行い厚労省に申請してリウマチ専門医の認定団体としての認可申請を行う。その一環として研修カリキュラムの見直しを行っている。又、これを研修成果の評価記録とするために手帳の作成を専門医資格認定委員会に要請する。(平成16年6月29日認定団体として受理された。)

専門医資格認定委員会報告を龍順之助理事より行った。

専門医資格認定団体に係る基準該当届を厚生労働省に提出するに当たり、外形基準9項目のうち教育施設での研修期間が「3年」から「5年以上」となったことによる移行処置をどうするかという問題が残っているが、この処置について後ほど規則の改正の議事において審議を頂く。

- ①2004年1月18日(日)専門医資格認定試験を実施した。受験者は144名であったが全員高得点であったため100%の合格となった。本年度から出題形式にX1、X2方式をより多く取り入れる。次回は、2005年1月16日(日)実施予定である。受験資格、応募要領はホームページ、メルマガ、ニュースレタ

ー2号(5月12日発行)3号9月15日発行予定)に掲載公告する。

- ②2003年度専門医資格更新に当たり、該当者685名の審査を行い532名が資格更新した。
- ③過去の出題問題を整理して『リウマチ専門医試験・例題と解説』を出版した。
- ④カリキュラムの見直しに合わせ、研修手帳(受講及び評価記録)を作成して、専門医の研修制度の効率化を図る。



施設認定委員会報告を腰野富久理事より行った。

①2003年8月21日、施設認定委員会を開催し審査に当たった。新規15施設については、基準を満たしており全施設を認定した。資格更新は、76施設のうち11施設は、スタッフの異動等により条件を満たさず、65施設について認定した。結果、2003年9月1日現在の教育施設数は334施設となった。

- ②府県別に見ると教育施設が1施設しかない県が山梨・和歌山・沖縄の3県あるが、これの対応と研修のあり方を検討していきたい。
- ③募集要項はホームページ、メルマガ、ニュースレター(2号、5月12日発行に掲載済み)でお知らせする。



国際委員会報告を井上一理事より行った。

- ①第48回学術集會にあたって、アジア地区からのフェロー6名の人選及び国際シンポジウムの5セッションとその演者及び座長の人選、推薦を行った。
- ②今回の国際シンポジウムの評価を行い、次期学会のシンポジウムのあり方を検討する。
- ③2005年5月28日開催予定の東アジアリウマチ会議(日・韓・中)の協力、支援を行う。



将来構想委員会報告を西岡久寿樹理事より行った。

①学術集會のあり方を検討してきたが、実際に第49回(平成17年4月)学術集會で実行に移し、変革を図っていく。そのため組織委員会を構成(学術プログラム・運営・評価の3委員会)して名実ともに中間法人日本リウマチ学会の学術集會とするために理事会が学術集會の母体となって運営していくシステムとする。

- ②学術集會の日程を1日延長してリウマチ専門医のコースレクチャーを設ける。

③中間法人設立にともなう規則の見直しを検討し、理事会に提言し決議されたので評議員会に諮り総会の承認を得る。(総会において承認された。)

④功労会員の任命、特例による評議員の選出および学会賞の見直しを行いステータスのアップと40歳未満の有為な研究者を奨励するため新に「奨励賞」を設ける。(平成17年度第49回学会・学術集會から実施する。)



生涯教育委員会報告を三森経世理事より行った。

リウマチ学会としての独自の研修会を検討してきたが、次回第49回学会で専門医のためのアニュアルコースレクチャーが設けられることから生涯教育委員会として教育研修プログラム担当として参画する。



情報化委員会報告を澤井高志理事より行った。

法人設立に併せIT化と情報化を掲げて委員会を立ち上げ事業を進めてきた。

- ①ホームページ、ニュースレター、メールマガジンの三位一体としての運用策を検討しながら何とかスタートを切ったところである。
- ②和文誌の廃刊に伴う情報の提供のあり方についても検討し、ニュース性としてのメルマガ、紙媒体の情報提供としてのニュースレター、情報の公開性と会員限定の情報提供としてのホームページをそれぞれの特徴、機能を生かした運用を行っていく。
- ③この機能をどれだけ利用しているのか見えない部分があるが、会員の意見を聞きながら今後も検討していく。
- ④三媒体を活用した広告提供を行って収益を得て、会員へのサービス向上に資する。問題点として、責任の所在、チェック機能をどうするのか。について検討する必要があると考えている。



日本医学会報告を医学会評議員の越智隆弘理事長より行った。

- ①次回の第27回日本医学会総会が大坂国際会議場で、2007年4月6日～8日の間、岸本忠三会長のもとに、「生命と医療の原点：いのち・ひと・夢」をメインテーマに開催される。
- ①医学会長、副会長の選挙が行われ、会長に高久史磨先生、副会長には基礎・岸本忠三先生、社会・小泉明先生、臨床・出月康夫先生が選出された。

以上2004年4月14日記

指導医・専門医の認定更新に関するお知らせ

日本リウマチ学会の指導医および専門医の認定有効期間は、それぞれ5年と定められております。本年度（2004年度）の認定更新についてお知らせいたします。

なお、更新時65歳以上の方は申請書の提出と更新料の納付のみで資格を更新できることになっております。

記

1. 今回認定更新対象者の方は10月中に各人あて「資格維持申請書」をお送りします。
2. 申請書に必要事項を記入の上、更新費（指導医10,000円、専門医10,000円、指導医・専門医20,000円）を納入し12月末（必着）までに提出していただきます。
3. 専門医資格認定委員会、専門医制度委員会で審査の上、理事会の承認を得て、認定証・専門医手帳を3月中にお送りします。
4. 認定日は2005年3月1日といたします。
5. 今回の認定更新対象者は次の方々です。
 - (1)指導医・1999年度（2000年3月1日認定者および更新者）
専門医・1999年度（同上）
以上の方々は、全員です。
 - (2)専門医・1998年度（1999年3月1日認定）以前の認定者で2004年3月1日更新の申請で「保留」とされた方

(注記)

- * 専門医の資格更新について
[専門医の資格の維持及び更新]

日本リウマチ学会専門医としての資格を維持するには、有責任中間法人日本リウマチ学会会員であり、専門医制度規則第6条第2項に示す有効期間の5年間に、総単位数として50単位以上を取得しなければならない。

但し、研修単位を必要とする年齢は更新時64歳までとし、65歳以上の本学会会員は資格維持申請書の提出と更新料のみで資格を更新することができる。なお、認定を受けてから有効期間（5年）経過後も取得した単位数が所定の50単位に満たないときの取り扱いには次による。

1. 認定更新の保留を申し出て、翌年度に再申請することができる。保留期間は、1年とし保留期間中は専門医を呼称することはできない（この間は「専門医」ではない）。保留期間の1年間が経過した後も、なお50単位が取得できない場合は専門医の資格を喪失する。なお、資格喪失後、再度専門医になるためには、専門医資格認定試験を改めて受験し合格しなければならない。
2. 海外留学または病気、出産等で単位の履修ができない特別な事情がある場合は、それを証明する書面を添えて認定更新の有効期間（5年）を留学等の期間だけ延長の申請をすることができる。（認められた場合、この間は「専門医」である。）
延長後の更新は、前号に準じて行う。

* 更新終了後の専門医手帳の破棄について

専門医更新の際に提出された専門医手帳は手続きを終了し、新規の手帳を送付しました後は学会事務局で保管いたしますが、保管期間は1ヵ年とし1年経過後破棄いたします。なお、現在保管しておりますのは前回（2004年3月更新分）の手帳です。ご必要な方は学会事務局までご連絡下さい。2005年3月末で破棄いたします。

日本リウマチ学会
専門医資格認定委員会
専門医制度委員会

平成17年度リウマチ登録医募集のお知らせ

平成17年度のリウマチ登録医を下記の要領で募集いたします。登録医の資格は次の条件を満たす者となっております。

1. リウマチ診療に現在まで5年以上*引き続き従事している臨床医であること。
(*医師免許を取得した日が平成12年3月末日以前の者)
2. 次の各号を満たすこと。
 - ①リウマチ診療患者名簿40名（R A3例以上を含む）を有すること。
 - ②①のうち20名（R A3例以上を含む）の診療記録を有すること。
 - ③教育研修会受講単位*を20単位以上取得した証明書を有すること。
(*日本リウマチ財団が発行した証明書による単位)

記

1. 募集期間は平成17年1月1日から3月31日までです。
2. 申請書用紙はハガキ、FAXまたはE-mailで事務局へ請求してください。
3. 申請者については、登録医審査委員会で審査し、審査結果は平成17年5月末日までに連絡します。
4. 登録医の登録期間は平成17年6月1日から3年間です。
5. 審査料は3万円で申請書提出時に、また、登録料は8万円で登録証交付時に納入することになっております。

財団法人 日本リウマチ財団 リウマチ登録医審査委員会
〒170-0005 東京都豊島区南大塚2-39-7 ヤマト大塚ビル5階
TEL. 03-3946-3551 FAX. 03-3946-7500
E-mail : fvgh6660@mb.infoweb.ne.jp
リウマチ情報センター
URL : <http://www.rheuma-net.or.jp/>
E-mail : inform@rheuma-net.or.jp

お知らせ

2004年度日本リウマチ学会「教育施設」：第16次認定

2004年度のリウマチ教育施設には次の34施設が認定されました。認定期間は2004年9月1日から2007年8月31日です。

都道府県名	認定番号	施設名	都道府県名	認定番号	施設名
北海道	398	国家公務員共済組合連合会斗南病院	静岡県	415	静岡県立総合病院
栃木県	399	独立行政法人国立病院機構宇都宮病院	愛知県	416	医療法人豊田会刈谷総合病院
埼玉県	400	埼玉県総合リハビリテーションセンター	愛知県	417	名古屋市立守山市民病院
埼玉県	401	自治医科大学附属大宮医療センター	愛知県	418	半田市立半田病院
東京都	402	財団法人日産厚生会玉川病院	三重県	419	独立行政法人国立病院機構三重中央医療センター
東京都	403	東京大学医科学研究所附属病院	兵庫県	420	神戸市立中央市民病院
東京都	404	東京都リハビリテーション病院	京都府	421	大原記念病院
東京都	405	自警会西東京警察病院	京都府	422	京都第一赤十字病院
千葉県	406	独立行政法人国立病院機構千葉東病院	大阪府	423	医療法人交詢会大阪リハビリテーション病院
神奈川県	407	独立行政法人国立病院機構神奈川病院	大阪府	424	医療法人協和会協和会病院
神奈川県	408	横須賀市立うわまち病院	大阪府	425	特定医療法人三和会永山病院
神奈川県	409	横浜総合病院リウマチ・関節センター	大阪府	426	錦秀会阪和住吉総合病院
長野県	410	医療法人抱生会丸の内病院リウマチセンター	広島県	427	広島県厚生連JA広島総合病院
福井県	411	独立行政法人国立病院機構あわら病院	広島県	428	広島県立身体障害者リハビリテーションセンター
福井県	412	福井県済生会病院	福岡県	429	独立行政法人国立病院機構福岡病院
岐阜県	413	社団医療法人かなめ会山内ホスピタル	熊本県	430	医療法人社団黎明会宇賀岳病院
静岡県	414	県西部浜松医療センター	熊本県	431	山鹿市立病院

2004年度日本リウマチ学会「教育施設」第13次資格更新施設

2004年度に認定された教育施設についてつぎの130施設がその施設を更新されました。認定期間は2004年9月1日から2007年8月31日です。

都道府県名	認定番号	施設名	都道府県名	認定番号	施設名
北海道	1	北海道大学病院	東京都	18	東京大学医学部附属病院
北海道	216	札幌山の上病院リウマチ膠原病センター	東京都	19	東京通信病院
北海道	217	札幌社会保険総合病院	東京都	20	東京都立府中病院
北海道	246	市立釧路総合病院	東京都	21	東京都老人医療センター
北海道	335	旭川医科大学附属病院	東京都	22	杏林大学医学部附属病院
岩手県	2	岩手医科大学医学部附属病院	東京都	23	都立大塚病院
宮城県	4	東北厚生年金病院	東京都	25	日本大学医学部附属板橋病院
宮城県	5	独立行政法人労働者健康福祉機構東北労災病院	東京都	156	日本大学医学部付属練馬光が丘病院
福島県	6	福島県立医科大学医学部附属病院	東京都	341	社会福祉法人白十字会東京白十字病院
福島県	153	労働者健康福祉機構福島労災病院	栃木県	27	自治医科大学附属病院
福島県	337	福島赤十字病院	栃木県	28	獨協医科大学病院
東京都	7	医療法人社団慈誠会上板橋病院	千葉県	29	千葉大学医学部附属病院
東京都	8	慶應義塾大学病院	千葉県	249	独立行政法人国立病院機構下志津病院
東京都	9	独立行政法人国立病院機構東京医療センター	埼玉県	30	埼玉医科大学総合医療センター
東京都	10	独立行政法人国立病院機構村山医療センター	埼玉県	31	埼玉医科大学病院
東京都	11	昭和大学病院	埼玉県	32	防衛医科大学校病院
東京都	12	順天堂大学医学部附属順天堂医院	埼玉県	339	埼玉社会保険病院
東京都	13	帝京大学医学部附属病院	埼玉県	340	深谷赤十字病院
東京都	14	東京医科歯科大学医学部附属病院	茨城県	338	財団法人筑波龍仁会筑波学園病院
東京都	15	東京医科大学病院	群馬県	247	医療法人社団日高会日高病院
東京都	16	東京女子医科大学附属第二病院	神奈川県	33	厚木市立病院
東京都	17	東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター	神奈川県	34	川崎市立川崎病院

都道府県名	認定番号	施設名
神奈川県	35	北里大学病院
神奈川県	36	北里大学東病院
神奈川県	37	独立行政法人国立病院機構相模原病院
神奈川県	39	聖マリアンナ医科大学病院
神奈川県	40	聖マリアンナ医科大学東横病院
神奈川県	41	東海大学医学部付属病院
神奈川県	42	横浜市立大学医学部附属病院
神奈川県	252	横浜市立市民病院
神奈川県	157	藤沢市民病院
神奈川県	158	横浜市立大学医学部附属市民総合医療センター
神奈川県	159	帝京大学医学部附属溝口病院
神奈川県	221	川崎市立井田病院
神奈川県	342	横浜船員保険病院
山梨県	43	山梨大学医学部附属病院
静岡県	44	市立伊東市民病院
静岡県	45	中伊豆温泉病院
静岡県	222	総合病院静岡厚生病院
長野県	160	長野県厚生農業協同組合連合会長野松代総合病院
長野県	161	小諸厚生総合病院
長野県	343	信州大学医学部附属病院
富山県	166	富山赤十字病院
愛知県	46	愛知医科大学附属病院
愛知県	47	独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター
愛知県	48	名古屋市立大学病院
愛知県	49	藤田保健衛生大学病院
愛知県	162	トヨタ記念病院
愛知県	163	名古屋大学医学部附属病院
愛知県	253	豊橋市民病院
愛知県	254	医療法人宝美会 総合青山病院
愛知県	344	名古屋共立病院
福井県	52	福井大学医学部附属病院
岐阜県	50	朝日大学附属村上記念病院
京都府	53	京都大学医学部附属病院
京都府	54	京都府立医科大学附属病院
大阪府	57	関西医科大学附属病院
大阪府	58	近畿大学医学部附属病院
大阪府	59	独立行政法人国立病院機構大阪南医療センター
大阪府	167	淀川キリスト教病院
大阪府	256	大阪府立急性期・総合医療センター
大阪府	257	ベルランド総合病院
大阪府	258	高槻赤十字病院
滋賀県	60	国立大学法人滋賀医科大学医学部附属病院
兵庫県	61	神戸大学医学部附属病院
兵庫県	62	財団法人甲南病院加古川病院
兵庫県	63	兵庫医科大学病院
兵庫県	259	関西労災病院
兵庫県	260	三木市立三木市民病院
兵庫県	261	神戸掖済会病院
兵庫県	347	公立学校共済組合近畿中央病院
岡山県	64	医療法人和香会倉敷広済病院
岡山県	171	財団法人倉敷成人病センター
岡山県	172	川崎医科大学附属病院

都道府県名	認定番号	施設名
岡山県	263	金光病院
広島県	264	広島市立広島市民病院
広島県	348	県立広島病院
広島県	349	公立学校共済組合中国中央病院
広島県	101	広島大学病院
島根県	66	島根大学医学部附属病院
鳥取県	67	鳥取大学医学部附属病院
鳥取県	262	社団法人鳥取県中部医師会立三朝温泉病院
山口県	226	山口大学医学部附属病院
山口県	265	宇部協立病院
山口県	351	山口県立中央病院
香川県	173	香川大学医学部附属病院
愛媛県	68	愛媛大学医学部附属病院
愛媛県	69	道後温泉病院リウマチセンター
愛媛県	70	松山赤十字病院 リウマチセンター
高知県	227	高知大学医学部附属病院
福岡県	175	独立行政法人労働者健康福祉機構九州労災病院
福岡県	176	産業医科大学病院
福岡県	228	独立行政法人労働者健康福祉機構門司労災病院
福岡県	266	医療法人社団杏林会林病院
長崎県	178	佐世保中央病院 リウマチ・膠原病センター
長崎県	267	独立行政法人国立病院機構長崎医療センター
長崎県	352	対馬いづはら病院
熊本県	179	熊本リハビリテーション病院
熊本県	180	独立行政法人国立病院機構熊本医療センター
熊本県	353	熊本赤十字病院
大分県	72	大分大学医学部附属病院
大分県	73	九州大学病院別府先進医療センター
大分県	181	大分赤十字病院
宮崎県	74	宮崎大学医学部附属病院
宮崎県	268	宮崎県立宮崎病院
宮崎県	269	医療法人善仁会市民の森病院
宮崎県	270	独立行政法人国立病院機構都城病院
鹿児島県	182	鹿児島赤十字病院リウマチ膠原病センター



お知らせ

◆リウマチ指導医名簿◆

北海道															
阿部 敬	今井 浩三	片山 耕	小池 隆夫	河野 通史	佐川 昭	種市 幸二	中井 秀紀	平野 史倫	藤咲 淳	三浪三千男	向井 正也	吉木 敬	渡部 一郎		
青森県															
小坂 志朗	竹森 弘光														
岩手県															
阿部 正隆	小山田喜敬	駒ヶ嶺正隆	澤井 高志	吉田 昌明											
宮城県															
泉山 朋政	大平 信広	岡崎 太郎	斎藤 輝信	佐々木 毅	佐藤 克己	佐藤 隆司	舟生 俊夫	前川宗一郎	三友 紀男	無量井 泰	渡辺惣兵衛				
秋田県															
荒井三千雄	高浜 正人														
山形県															
大類 広	須田 昭男	高木 理彰													
福島県															
大口 義人	海瀬 俊治	粕川 禮司	菅野 裕雅	佐藤由紀夫	千葉 勝実	西間木友衛	星 智	保科 博登	宮田 昌之	吉田 浩					
茨城県															
伊藤 聡	住田 孝之	西成田 真	山根 一秀												
栃木県															
松葉 健	吉尾 卓														
群馬県															
磯 武信	桜井 武男	高岸 憲二	本橋 豊												
埼玉県															
今井 史彦	大井 淑雄	川越 光博	鈴木 王洋	竹内 勤	田中 政彦	橋本 喬史	半田 祐一	広瀬 立夫							
千葉県															
内田 詔爾	杉山 隆夫	鈴木 博史	関川 巖	津田 裕士	土田 豊実	縄田 泰史	野平 勲一	松村竜太郎	守屋 秀繁	横張 龍一	米本 光一	渡辺 言夫			
東京都															
赤岡 家雄	赤松 功也	安倍 千之	安倍 達	有富 寛	石上 宮子	井出 宏嗣	伊藤 幸治	伊藤 保彦	稲田 進一	稲毛 康司	井上 和彦	井上 哲文	猪熊 茂子	入交昭一郎	大国 真彦
大曾根康夫	岡崎 健	押田 翠	織田 弘美	笠間 毅	鎌谷 直之	川合 眞一	川口 鎮司	窪田 哲朗	桑原 茂	小出 純	上阪 等	後藤 眞	小林 茂人	斎藤 栄造	斎藤 修
澤田 滋正	塩川 優一	柴崎 敏昭	菅原 幸子	杉崎 徹三	勝呂 徹	鈴木 三夫	鈴木 康夫	諏訪 昭	高崎 芳成	竹内 明輝	竹内 二士夫	田島 規子	立沢 宰	田中 廣壽	田中 守
谷口 敦夫	寺井 千尋	東條 毅	中島 敦夫	中島 進	永島 正一	長瀬 満夫	中林 公正	中山 昇二	並木 脩	西海 正彦	西成田 隆雄	根岸 雅夫	橋本 博史	林 徹	林 泰史
原 まさ子	針谷 正祥	平形 道人	平野 隆雄	廣瀬 俊一	橋本 俊成	藤井 克之	藤川 敏	古屋光太郎	星 恵子	星野 孝	細田 泰弘	細野 治	細谷 龍男	松浦美喜雄	松岡 康夫
松田 重三	御巫 清允	三田村忠行	三森 明夫	宮坂 信之	宮本 昭正	向井 英一	村島 温子	桃原 茂樹	森 俊仁	森 義明	森本 幾夫	山縣 元	山田 昭夫	山田 明	山中健次郎
山中 寿	山本 一彦	吉澤 久嘉	吉田 正	吉田 雅治	吉野 横一	吉野 定美	龍 順之助	和田 紀之	和田 靖之	蕨 治言					
神奈川県															
相原 雄幸	秋月 正史	東 威	安達 正則	池内 宏	石ヶ坪良明	市川 陽一	岩野 邦男	大森 薫雄	岡田 純	松野 博明	岡本 連三	尾崎 承一	越智 隆弘	加藤 智啓	狩野 庄吾
工藤 洋	腰野 富久	近藤 啓文	斎藤 知行	佐藤 昌志	鈴木 一太	鈴木 貴博	谷 賢治	塚本 行男	長岡 章平	中村 洋	西岡久寿樹	橋本 明	松田 隆秀	水島 裕	美田 誠二
三ツ木直人	宮城 憲一	宮地 清光	森 雄二郎	柳川 明	山田 秀裕	行山 康									
新潟県															
荒川 正昭	石川 肇	黒田 毅	佐伯 敬子	佐藤健比呂	東條 猛	遠山知香子	中園 清	中野 正明	羽生 忠正	村澤 章					
富山県															
木村 友厚	小泉富美朝	杉山 英二													
石川県															
小川 法良	菅井 進	村山 隆司													
福井県															
中村 徹															
山梨県															
松本美富士															
長野県															
秋月 章	浦野 房三	金物 寿久	野村 隆洋	脇谷 滋之											

岐阜県

糸数 万正 大橋 俊郎 武内 章二 東島 利夫

静岡県飯島 眞悟 飯田 昇 石原 義恕 太田 策啓 大橋 弘幸 勝部 定信 比嘉 邦雄 宮本 繁仁
諸井 泰興**愛知県**青木 重久 浅井 富明 井上 哲郎 今泉 司 岩田 久 衛藤 義人 大石 幸由 大島 久二
太田 弘敏 岡本 尚 加藤 芳郎 鳥飼 勝隆 中川 研二 長屋 郁郎 永谷 祐子 丹羽 滋郎
坂野 章吾 松井 宣夫 三井 忠夫 吉田 篤博 吉田 俊治**三重県**

大萱 稔

滋賀県

井上 康二 井上 四郎 西岡 淳一

京都府

石田 博 梅原 久範 京極 方久 久保 俊一 田中 清介 三森 経世 山下 文治 吉川 敏一

大阪府大澤 傑 小川 亮恵 菊池 啓 小林 和夫 小松原良雄 佐伯 行彦 志水 正敏 末村 正樹
竹内 孝男 立沢 喜和 辻本 正記 戸田 佳孝 野中 藤吾 橋本 武則 濱野 照明 福田 寛二
福田 眞輔 船内 正憲 前田 晃 村田 紀和**兵庫県**石川 斉 居村 茂明 岩崎 剛 大野 修 小野村敏信 川井 和夫 熊谷 俊一 郡山 健治
小林 郁雄 佐野 統 塩沢 和子 塩沢 俊一 七川 欽次 立石 博臣 田中 泰史 西林 保朗
松井 聖 松原 司 油谷 安孝 吉野 良平**奈良県**

宗園 聡 高倉 義典

和歌山県

上好 昭孝 山内 康平

鳥取県

豊島 良太 山本 吉蔵

島根県

上尾 豊二 恒松 徳五郎

岡山県

井上 一 横野 博史 宮脇 昌二 山村 昌弘

広島県

椎野 泰明 土肥 信之 西谷 皓次 箱田 雅之 山名 征三

山口県

垣本 毅一 河合 伸也 藤森 十郎

徳島県

木下 勇 四宮 文男

香川県

猪尾 昌之 倉田 典之 徳田 道昭 乗松 尋道 横山 良樹

愛媛県

奥田 恭章 柴田 大法 高杉 潔 能勢 眞人 山本 純己 横田 英介

高知県

大久保 進

福岡県大田 俊行 大塚 毅 兼岡 秀俊 草場 公宏 黒田 康二 近藤 正一 斎藤 和義 酒井 好古
首藤 敏秀 杉岡 洋一 高岸 直人 田中 良哉 長嶺 隆二 福田 孝昭 山中 健輔 吉澤 滋**佐賀県**

河部庸次郎

長崎県

井田 弘明 植木 幸孝 江口 勝美 折口 智樹 田口 厚

熊本県

石川浩一郎 木村 千仞 忽那 龍雄 武内 晴明 東野 通志 中村 正 水田 博志

大分県

織部 元廣 塩川左斗志 神宮 政男 鳥巢 岳彦 西村 純二 堀田 正一 安田 正之

宮崎県

上田 章 税所 幸一郎 田島 直也 日高 利彦

鹿児島県

武井 修治 鉾之原昌 松田 剛正

沖縄県

阿部 重人

◆第14回 北海道・東北支部学術集会◆

開催日

2004. 12. 10(金) 12:15~18:30

2004. 12. 11(土) 09:15~15:35

会場

〒010-0874 秋田市千秋久保田町6番6号

Tel. 018-831-2011 Fax. 018-831-1663

会長 秋田大学医学部 整形外科 井樋 栄二

参加費 3,000円

内容

2004. 12. 10(金) 15:10~16:10

教育講演1 (座長 井樋 栄二)

「人工肘関節開発の30年の回顧と今後の展望」

神奈川県綾瀬厚生病院 工藤 洋

16:25~18:30

シンポジウム (座長 島田 洋一)

「関節リウマチにおける頸椎病変の手術タイミング」

=シンポジスト=

藤谷 正紀 (北海道)・植山 直樹 (青森)・

石井 祐信 (宮城)・山崎 健 (岩手)・本郷 道生 (秋田)

2004. 12. 11(土) 11:10~12:10

教育講演2

「関節リウマチの足部病変に対する治療」

奈良医大整形外科教授 高倉 義典

12:10~13:10

昼食ランチョンセミナー

「自己免疫疾患と純化造血幹細胞移植-免疫と血液の接点-」

秋田大学 医学部 内科学講座

血液・腎臓・膠原病内科学分野 (第3内科)

教授 澤田 賢一

13:10~

主題「インフリキシマブの使用経験」

演題募集

1次: 2004. 7. 1(木) ~7. 31(土)

2次: 2004. 9. 1(水) ~9. 30(木)

連絡先

〒010-8543 秋田市本道1-1-1

秋田大学医学部 整形外科学教室 医局

Tel. 018-884-6148 Fax. 018-836-2617

◆第15回 関東支部学術集会◆

開催日

2004. 12. 4(土) 9:00~17:30

会場

大手町サンケイプラザ

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-7-2

Tel. 03-3273-2258, 2259

会長

東京女子医科大学 膠原病リウマチ痛風センター

原 まさ子

参加費 3,000円

内容

1. 特別講演 2題

2. 主題 (シンポジウム形式) 3題

3. 一般演題

演題募集

2004. 9. 1(水) ~9. 30(木)

連絡先

〒162-0024 東京都新宿区河田町10-22

東京女子医科大学 膠原病リウマチ痛風センター

川口 鎮司

Tel. 03-5268-1725

E-mail. y-kawa@ior.twmu.ac.jp

◆第15回日本リウマチ学会中国・四国支部学術集会◆

開催日

2004. 11. 13(土) 8:30~18:30

会場

おかやま三光荘

〒703-8278 岡山市古京町1丁目 Tel: 086-272-2271

会長

岡山大学大学院医歯学総合研究科腎・免疫・内分泌代謝内科学

榎野博史

内容

特別講演I

「関節リウマチの治療ガイドライン」

東京大学医学部アレルギー・リウマチ科 山本一彦

座長

岡山大学大学院医歯学総合研究科腎・免疫・内分泌代謝内科学

榎野博史

特別講演II

「関節リウマチの早期診断と臨床経過の予知」

長崎大学大学院医歯学総合研究科病態解析・制御学講座

江口勝美

座長

岡山大学副学長 井上 一

ランチョンセミナー

「関節リウマチにおける骨粗鬆症の病態, 診断, 治療」

近畿大学医学部奈良病院整形外科・リウマチ科

宗園 聡

座長

倉敷成人病センター・リウマチ膠原病センター 吉永泰彦

シンポジウム

「リウマチが重症化しないために-EBMによる治療を目指して」

座長

西田圭一郎(岡山大学大学院生体機能再生・再建学)

山村昌弘(岡山大学大学院腎・免疫・内分泌代謝内科学)

1)「MTX」

岡山大学大学院腎・免疫・内分泌代謝内科 河島昌典

2)「併用療法」

香川大学医学部第一内科 徳田道昭

3)「ステロイド」

島根大学医学部輸血部 熊倉俊一

4)「生物製剤」

宇多津浜クリニック 猪尾昌之

5)「肺疾患-合併症とDMARD副作用」

倉敷成人病センター・リウマチ膠原病センター 吉永泰彦

6)「アミロイドーシスの治療」

道後温泉病院 奥田恭章

7)「外科手術」

鳥取大学医学部リハビリテーション部 萩野 浩

8)「頸椎病変」

岡山大学岡山大学大学院生体機能再生・再建学 田中雅人

一般演題募集開始

7月1日(木) 締切り 8月6日(金) 午前

ホームページ: <http://www.med-gakkai.com/rhe15/>

連絡先

〒700-8558 岡山市鹿田町2-5-1

岡山大学大学院医歯学総合研究科腎・免疫・内分泌代謝内科学

山村昌弘

Tel: 086-235-7233

E-mail: yamamura@md.okayama-u.ac.jp

日本リウマチ学会が認定した教育研修会又は講演会

日本リウマチ学会専門医資格維持施行細則による、当会が認めた教育研修会又は講演会は次の通りです。なお、財団法人日本リウマチ財団が認めた登録医単位講演も専門医の単位として認められます。

2004. 9.18 (土)

会の名称 第23回 日本運動器移植・再生医学研究会
開催日 2004. 9.18 (土)
開催場所 アークホテル岡山 (岡山市)
単位 各1
責任者(代表) 岡山大学大学院 歯医学総合研究科(整形外科) 井上 一
時間・演題・講師 11:20~12:20
「ポストゲノムにおけるリウマチ治療と骨再生研究」
就実大学 薬学部 医療薬学科 教授 中西 徹
13:00~14:00
「骨代謝・形成を担う核内受容体の機能」
東京大学 分子細胞生物学研究所 / 科学技術振興事業団・SORST 教授 加藤茂明
問い合わせ先 岡山大学大学院 歯医学総合研究科(整形外科)
尾崎敏文(秘書:木村)
Tel. 086-235-7273

2004. 9.18 (土)

会の名称 比叡RAフォーラム
開催日 2004. 9.18 (土)
開催場所 ホテルグランヴィア京都 (京都市)
単位 1
責任者(代表) 三森経世
認定講演時間 18:30~19:30
演題 「関節リウマチの疾患感受性遺伝子」
講師 東京大学 医学部 アレルギー膠原病内科 教授 山本一彦
問い合わせ先 三菱ウェルファーマ(株) 京都支店 学術グループ
前園泰成
Tel. 075-314-8523

2004. 9.18 (土)

会の名称 栃木抗サイトカイン療法学術講演会
開催日 2004. 9.18 (土)
開催場所 ホテル東日本宇都宮 (宇都宮市)
単位 1
責任者(代表) 獨協医科大学 整形外科 教授 早乙女紘一
認定講演時間 18:00~19:00
演題 「米国における抗サイトカイン製剤の治療経験」
講師 Western Colorado Rheumatology Clinic Peter Y. Shane
問い合わせ先 田辺製薬株 宇都宮営業所 南 三平
Tel. 028-600-6631

2004. 9.22 (水)

会の名称 第8回 熊本骨粗鬆症研究会
開催日 2004. 9.22 (水)
開催場所 ホテルニューオータニ熊本 (熊本市)
単位 2
責任者(代表) 公立玉名中央病院 整形外科 部長 中野哲雄
時間・演題・講師 19:00~20:00
「関節リウマチに伴う骨粗鬆症の診断」
鶴上整形外科リウマチ科 院長 鶴上 浩
20:00~21:00
「関節リウマチに伴う骨粗鬆症の病態および治療 -ステロイド性骨粗鬆症を含む-」
近畿大学医学部奈良病院 整形外科・リウマチ科 教授 宗園 聡
問い合わせ先 山之内製薬(株) 熊本営業所 池田茂生
Tel. 096-324-5021

2004. 9.24 (金)

会の名称 第4回 筑後骨粗鬆症研究会
開催日 2004. 9.24 (金)
開催場所 ルネッサンスホテル創世 (久留米市)
単位 1
責任者(代表) 久留米大学 医学部 整形外科 教授 永田見生

認定講演時間 19:45~20:45

演題 「産婦人科と骨粗鬆症 -“突飛な疾患か?” “NO!”-」
講師 東京女子医科大学 産婦人科学教室 教授 太田博明
問い合わせ先 住友製薬(株) 久留米営業所 播本義彦
Tel. 0942-30-7712

2004. 9.24 (金)・25 (土)

会の名称 第13回 日本シェーグレン症候群研究会
開催日 2004. 9.24 (金)・9.25 (土)
開催場所 佐賀県医師会 メディカルセンター
単位 各1
責任者(代表) 佐賀大学 医学部 内科 教授 長澤浩平
時間・演題・講師 9.24 (金) 18:00~19:00
「Th1/Th2 balance in auto immune diseases」
Professor.Univ. of Pittsburgh W.M.Ridgway
9.25 (土) 11:00~12:00
「プログラムされた細胞死“アポトーシス”の役割 -個体発生から発癌まで-」
佐賀大学 医学部 分子生命科学講座 教授 吉田裕樹
問い合わせ先 佐賀大学 医学部 内科 多田芳史
Tel. 0952-34-2367

2004. 9.24 (金)・25 (土)

会の名称 日本ハイパーサーミア学会 第21回大会
開催日 2004. 9.24 (金)・9.25 (土)
開催場所 京都パークホテル (京都市)
単位 24日2/25日1
責任者(代表) 京都府立医科大学 生体機能制御学 教授 吉川敏一
時間・演題・講師 9.24 (金)
シンポジウム2
健康と温泉 -温泉の効用、温熱を科学する-
14:00~14:30
「温泉治療と温熱療法」
北里大学東病院 リハビリテーション科 助教授 前田真治
14:30~15:00
「呼吸器疾患と温泉医学」
岡山大学附属病院 三朝医療センター センター長・教授 谷崎勝朗
15:00~15:30
「草津温泉と皮膚疾患」
群馬温泉医学研究所 所長 久保田一雄
15:30~16:00
「膠原病における末梢循環と温熱」
東京都立駒込病院 アレルギー膠原病科 部長 猪熊茂子
16:00~16:30
「循環器疾患に対する温泉、入浴の効果」
鹿児島大学 機能再建医学 教授 田中信行
9.25 (土)
9:00~9:45
教育講演 その1
「熱ショックによる蛋白質リン酸化酵素PKBの活性化機構」
神戸大学バイオシグナル研究センター 教授 吉川 潮
9:45~10:30
教育講演 その2
「ハイパーサーミアによる免疫系活性化の機構」
近畿大学 医学部 免疫学 教授 宮澤正顯
問い合わせ先 京都府立医科大学 生体安全医学講座 古倉 聡
Tel. 075-251-5508

2004. 9.25 (土)

会の名称 第2回 神奈川骨粗鬆症治療フォーラム
開催日 2004. 9.25 (土)
開催場所 横浜ベイシェラトンホテル&タワーズ (横浜市)
単位 1
責任者(代表) 横浜南共済病院 リウマチ内科 部長 長岡章平
認定講演時間 20:00~21:00

お知らせ

演 題 「原発性骨粗鬆症の診断と治療」
講 師 国際医療福祉大学附属熱海病院 産婦人科 教授 五来逸雄
問い合わせ先
帝人ファーマ(株) 神奈川支店 横浜営業所 花岡 洋
Tel. 045-473-7722

2004.9.29 (水)

会の名称 第5回 南大阪リウマチ研究会
開 催 日 2004.9.29 (水)
開催場所 リーガロイヤルホテル堺 (堺市)
単 位 1
責任者(代表) 大阪リハビリテーション病院 井川 宣
認定講演時間 20:00~21:00
演 題 「軟骨の再生医療」
講 師 信州大学医学部附属病院 整形外科 講師 脇谷滋之
問い合わせ先
大阪リハビリテーション病院 井川 宣
Tel. 0724-73-2000

2004.9.29 (水)

会の名称 第5回 骨粗鬆症特別講演会
開 催 日 2004.9.29 (水)
開催場所 長崎プリンスホテル (長崎市)
単 位 各1
責任者(代表) 長崎大学 医学部 第一内科 教授 江口勝美
時間・演題・講師
19:00~20:00
「続発性骨粗鬆症の病態と治療」
産業医科大学 第一内科 教授 田中良哉
20:00~21:00
「骨粗鬆症性脊椎骨折の保存的・外科的治療」
自治医科大学 整形外科 教授 星野雄一
問い合わせ先
万有製薬株式会社 中九州支店 長崎営業所 元山達郎
Tel. 095-823-7141 Fax. 095-823-7150

2004.10.1 (金)

会の名称 メディカルフォーラム in Sapporo
開 催 日 2004.10.1 (金)
開催場所 札幌プリンスホテル (札幌市)
単 位 各1
責任者(代表) 北海道大学大学院 医学研究科 病態内科
学講座・第二 内科 教授 小池隆夫
時間・演題・講師
19:00~20:00
「RAのりハビリテーション機能評価」北海道大学大学院
医学研究科 リハビリテーション医学 助教授 渡部一郎
20:00~21:00
「RAにおけるNSAIDsの使い方」
福島赤十字病院 内科部長 宮田昌之
問い合わせ先
大正富山医薬品㈱ 札幌支店 櫻田昌史
Tel. 011-512-2173 (内線 471)

2004.10.2 (土)

会の名称 第14回 千葉膠原病セミナー
開 催 日 2004.10.2 (土)
開催場所 京成ホテル ミラマーレ (千葉市)
単 位 1
責任者(代表) 千葉県済生会習志野病院 内科/リウマチ膠 原病・
アレルギー科 縄田泰史
認定講演時間 17:00~18:00
演 題 「膠原病リウマチ性疾患の診療における自己抗体の意義」
講 師 京都大学大学院 医学研究科 内科学講座
臨床免疫学 教授 三森経世
問い合わせ先
千葉県済生会習志野病院 内科/リウマチ膠原病・アレルギー科
縄田泰史
Tel. 047-473-1281 / Fax. 047-478-6601
E-mail. nawatay@pop12.odn.ne.jp

2004.10.2 (土)

会の名称 兵庫県整形外科医会
開 催 日 2004.10.2 (土)
開催場所 生田神社会館 (神戸市)
単 位 2
責任者(代表) 式部恭一
時間・演題・講師
16:00~17:00
「人工股関節のロボット支援手術」 大阪大学大学院 医学系研究

科講師 器官制御外科学講座 (整形外科) 菅野伸彦
17:00~18:00
「変形性股関節症の自然経過と対策」 埼玉医科大学 整形外科
名誉教授 二ノ宮節夫
問い合わせ先
医療法人社団 四方整形外科 四方義明
Tel. 078-918-6161

2004.10.2 (土)

会の名称 第9回 北海道臨床リウマチフォーラム
開 催 日 2004.10.2 (土)
開催場所 京王プラザホテル札幌 (札幌市)
単 位 2
責任者(代表) 北見赤十字病院 副院長 種市幸二
時間・演題・講師
16:00~18:00
シンポジウム
「RAの内科的問題点と合併症」
1) 血管病変
北海道大学大学院 医学研究科 病態内科学講座
第二内科 近藤 真
2) 呼吸器病変
札幌山の上病院 リウマチ膠原病センター 萩原宏美
3) 消化器病変
帯広厚生病院 消化器科 竹田 剛
4) 骨病変
札幌医科大学 医学部 第一内科 高橋裕樹
5) 総合討論
18:00~19:00
特別講演
「厚生労働省のシェーグレン症候群診断基準はどのように改訂されたか」
倉敷成人病センター リウマチ科 顧問 宮脇昌二
問い合わせ先
三菱ウェルファーマ(株) 北海道支店 学術グループ 小山芳弘
Tel. 011-520-6001

2004.10.9 (土)

会の名称 第1回 城東RA Conference(JRC)
開 催 日 2004.10.9 (土)
開催場所 浅草ビューホテル (台東区)
単 位 1
責任者(代表) 東京女子医科大学 第2病院 整形外科 井上和彦
認定講演時間 16:00~17:00
演 題 「関節リウマチの最新薬物療法
-生物学的製剤を中心に-」
講 師 東邦大学医学部付属大森病院 膠原病科
教授 川合眞一
問い合わせ先
東京女子医科大学 第2病院 整形外科 井上和彦
Tel. 03-3810-1111(内線 2311)

2004.10.10 (日)

会の名称 第3回 日本リウマチ実地医会
開 催 日 2004.10.10 (日)
開催場所 横浜ロイヤルパークホテル (横浜市)
単 位 各1
責任者(代表) 新横浜山前クリニック 院長 山前邦臣
時間・演題・講師
16:00~17:00
「関節リウマチの肺合併症と対策」 聖マリアンナ医科
大学 リウマチ膠原病アレルギー内科 助教授 山田秀裕
17:00~18:00
「関節リウマチの腎合併症と対策」 新潟大学 医学部 保健学科
教授 中野正明
問い合わせ先
参天製薬㈱ リウマチマーケティングチーム 井手尾健太
Tel. 06-6321-7068

2004.10.12 (火)

会の名称 第12回 長崎骨粗鬆症研究会
開 催 日 2004.10.12 (火)
開催場所 ウェルシティ長崎 厚生年金会館 (長崎市)
単 位 2
責任者(代表) 長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科
病態解析・制御学講座 (第一内科) 江口勝美
時間・演題・講師
18:30~19:30
「骨はいかに形成され維持されるか」長崎大学大学院
医歯薬学総合研究科 発生分化機能再建学講座 顎口龍

生物学分野 教授 小守壽文
 19:30~20:30
 「骨粗鬆症における脊椎骨折防止とQOL」
 産業医科大学 整形外科 教授 中村利孝
 問い合わせ先
 長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 病態解析・制御
 学講座 (第一内科) 江口勝美
 Tel. 095-849-7260

2004.10.15 (金)

会の名称 比企医師会学術講演会
 開催日 2004.10.15 (金)
 開催場所 紫雲閣 (東松山市)
 単位 1
 責任者 (代表) 飯塚 正
 認定講演時間 19:30~20:30
 演題 「関節リウマチ治療の最近の進歩 - 整形外科の立場から -」
 講師 埼玉医科大学 整形外科・脊椎外科 教授 織田弘美
 問い合わせ先
 エーザイ(株) 水越 稔
 Tel. 049-245-6321

2004.10.20 (水)

会の名称 第64回 リハビリセミナー
 開催日 2004.10.20 (水)
 開催場所 東京都リハビリテーション病院 3F 大会議室 (墨田区)
 単位 1
 責任者 (代表) 東京都リハビリテーション病院 病院長 服部博之
 認定講演時間 19:30-21:00
 演題 「家庭医のためのリウマチのリハビリテーション」
 講師 東京都リハビリテーション病院 診療部 整形外科医長
 (日本医科大学 リウマチ科 客員講師) 向井英一
 問い合わせ先
 東京都リハビリテーション病院 井上浩明
 Tel. 03-3616-8600 (内線 213)

2004.10.23 (土)

会の名称 第10回 神奈川 手・肘の外科研究会
 開催日 2004.10.23 (土)
 開催場所 横浜シンポジア (横浜市)
 単位 1
 責任者 (代表) (独)国立病院機構 相模原病院 整形外科 丸谷龍思
 認定講演時間 17:00~18:00
 演題 「肘から手における絞扼性神経障害とその鑑別診断
 (RAを含む)」
 講師 寺西報恩会 長吉総合病院 院長 梁瀬義章
 問い合わせ先
 (独)国立病院機構 相模原病院 整形外科 丸谷龍思
 Tel. 042-742-8311 (内線 7215)

2004.10.23 (土)

会の名称 リウマチフォーラム北河内
 開催日 2004.10.23 (土)
 開催場所 守口ロイヤルバインズホテル (守口市)
 単位 1
 責任者 (代表) 関西医科大学 整形外科 飯田寛和
 認定講演時間 16:30~17:30
 演題 「リウマチ医のための関節の診かた」
 講師 道後温泉病院 リウマチセンター 高杉 潔
 問い合わせ先
 関西医科大学 整形外科 飯田寛和
 Tel. 06-6993-9481

2004.10.26 (火)

会の名称 第11回 久留米リウマチ膠原病研究会
 開催日 2004.10.26 (火)
 開催場所 久留米翠香園ホテル (久留米市)
 単位 1
 責任者 (代表) 相澤久道
 認定講演時間 19:00~20:00
 演題 「小児期の慢性関節炎の診かたと治療法の進歩」
 講師 横浜市立大学大学院 医学研究科
 発生・小児医療学 教授 横田俊平
 問い合わせ先
 久留米大学医療センター 福田孝昭
 Tel. 0942-22-6111

2004.10.28 (木)

会の名称 第1回 島根東部リウマチセミナー
 開催日 2004.10.28 (木)

開催場所 ホテル一畑 (松江市)
 単位 各1
 責任者 (代表) 内尾祐司
 時間・演題・講師
 18:30~19:30
 「関節リウマチ薬物療法の進歩と問題点」
 埼玉医科大学 総合医療センター 第2内科 教授 竹内 勤
 19:30~20:30
 「関節炎患者の鑑別の手順」
 大分大学 医学部 整形外科学教室 教授 鳥巢岳彦
 問い合わせ先
 鳥取大学 医学部 整形外科 高尾昌人
 Tel. 0853-20-2241

2004.10.30 (土)

会の名称 第8回 新潟リウマチ医の会
 開催日 2004.10.30 (土)
 開催場所 新潟大学 医学部 第二講義室 (新潟市)
 単位 2
 責任者 (代表) 長岡赤十字病院 リウマチ科・整形外科 羽生忠正
 時間・演題・講師 16:10~17:10
 「線維筋痛症の病態と治療」
 長野県厚生連篠ノ井総合病院 リウマチ膠原病センター リウマチ科
 医長 浦野房三
 17:20-18:20
 「EBMに基づく関節リウマチの治療ガイドライン
 - その問題点と使い方 -」
 順天堂大学 医学部 膠原病内科 助教授 高崎芳成
 問い合わせ先
 参天製薬(株) 医薬事業部 リウマチマーケティングチーム
 中田 智子
 Tel. 06-6321-7068 (内線 8260)

2004.11.5 (金) . 6 (土)

会の名称 第103回 中部日本整形外科災害外科学会
 開催日 2004.11.5 (金) . 6 (土)
 開催場所 神戸国際会議場 (神戸市)
 単位 各1
 責任者 (代表) 近畿大学 医学部 整形外科 浜西千秋
 時間・演題・講師
 11.5 (金)
 12:30~13:30 E会場 (502号室)
 「変形性関節症における疼痛治療」
 名古屋大学 医学部 整形外科 教授 石黒直樹
 12:30~13:30 D会場 (501号室)
 「リウマチ治療における生物学的製剤の国内外の最新情報」
 埼玉医科大学総合医療センター 第二内科 教授 竹内 勤
 16:20~17:20 B会場 (国際会議室)
 「外傷後の深部静脈血栓症と肺血栓症
 (どこまでやるか予防と説明)」
 国家公務員共済組合連合会 熊本中央病院 整形外科 阿部靖之
 11.6 (土)
 12:00~13:00 B会場 (国際会議室)
 「骨粗鬆症の病態と最新の治療戦略
 - ステロイド性骨粗鬆症を含む -」
 近畿大学奈良病院 整形外科・リウマチ科 教授 宗圓 聰
 12:00~13:00 D会場 (501号室)
 「整形外科臨床にかかわる深部静脈血栓症/肺塞栓症」
 近畿大学 医学部 整形外科 助教授 赤木将男
 問い合わせ先
 近畿大学 医学部 整形外科 浜西千秋
 Tel. 072-366-0221 (内線 3212)

2004.11.6 (土)

会の名称 第10回 茨城リウマチ
 開催日 2004.11.6 (土)
 開催場所 つくば国際会議場 (つくば市)
 単位 各1
 責任者 (代表) 住田孝之
 時間・演題・講師
 17:00~18:00
 「ループス腎炎治療の動向」 群馬大学大学院 生体統御内科学
 教授 野島美久
 18:00~19:00
 「膝関節症の治療戦略」
 長野松代総合病院 副院長 秋月 章
 問い合わせ先
 筑波大学臨床医学系内科 膠原病リウマチ科 松本 功
 Tel & Fax. 029-853-3186

お知らせ

2004.11.11 (木)

会の名称 第4回 城北関節炎・RA・OA・AS談話会
開催日 2004.11.11 (木)
開催場所 ホテルメトロポリタン (豊島区)
単 位 1
責任者 (代表) 星野整形外科クリニック 星野 孝
認定講演時間 20:00~21:00
演 題 「当院におけるリウマチ手治療の実際」
講 師 独立行政法人国立病院機構 相模原病院
リハビリテーション科 医長 関 敦仁
問い合わせ先
星野整形外科クリニック 星野 孝
Tel. 03-5982-6191

2004.11.11 (木)

会の名称 第3回 臨床リウマチUpdate
開催日 2004.11.11 (木)
開催場所 スイスホテル南海大阪 (大阪市)
単 位 1
責任者 (代表) 西沢良記
認定講演時間 19:00~20:00
演 題 「関節リウマチの内科合併症」
講 師 東邦大学 医学部 大森病院 膠原病科 教授 川合眞一
問い合わせ先
大阪市立大学大学院 代謝内分秘病態内科学 後藤仁志
Tel. 06-6645-3805

2004.11.17 (水)

会の名称 第11回 長崎大腿骨頸部骨折研究会
開催日 2004.11.17 (水)
開催場所 長崎プリンスホテル3Fトパーズルーム (長崎市)
単 位 1
責任者 (代表) 進藤裕幸
認定講演時間 19:30~20:30
演 題 「角度可変式ヒップスクリュー (ASヒップスクリュー) の
現状と今後の展望」
講 師 松江赤十字病院 整形外科 中山威知郎
問い合わせ先
長崎大学 医学部 整形外科 榎本 寛
Tel. 095-849-7321

2004.11.18 (木)

会の名称 第2回 骨粗鬆症セミナー
開催日 2004.11.18 (木)
開催場所 ホテル東日本宇都宮 (宇都宮市)
単 位 1
責任者 (代表) 矢野整形外科医院 矢野隆一
認定講演時間 19:30~20:30
演 題 「RAにおけるステロイド骨粗鬆症の治療」
講 師 大阪市立大学 整形外科 助教授 小池達也
問い合わせ先
武田薬品工業(株) 金森政樹
Tel. 028-627-2411

2004.11.18 (木)

会の名称 第7回 大田区リウマチ・膠原病研究会
開催日 2004.11.18 (木)
開催場所 東邦大学 臨床講堂 (大田区)
単 位 1
責任者 (代表) 勝呂 徹
認定講演時間 19:30~20:30
演 題 「膠原病の肺障害」
講 師 都立駒込病院 アレルギー・膠原病科 部長 猪熊茂子
問い合わせ先
東邦大学 整形外科教室 関口昌之
Tel. 03-3762-4151 (内線 6635)

2004.11.18 (木)

会の名称 東海炎症研究会
開催日 2004.11.18 (木)
開催場所 名古屋観光ホテル (名古屋市)
単 位 各1
責任者 (代表) 大塚隆信
時間・演題・講師 18:30 - 19:30
「内科から見た関節リウマチの最新薬物療法」
藤田保健衛生大学 リウマチ感染症内科 教授 吉田俊治
19:30~20:30
「ステロイド使用における合併症の注意点 -骨・関節を中心に-」
京都府立医科大学 大学院 医学研究科

運動器機能再生外科学 教授 久保俊一
問い合わせ先
名古屋市立大学 大学院 医学研究科 社会復帰医学講座
筋・骨格系医学 関谷勇人
Tel. 052-853-8236

2004.11.20 (土)

会の名称 兵庫医大整形外科開業医会 (第4回)
開催日 2004.11.20 (土)
開催場所 ホテルグランヴィア大阪 (大阪市)
単 位 1
責任者 (代表) 塩田 誠
認定講演時間 16:15 ~17:15
演 題 「骨粗鬆症の新しい薬物療法」 -二次性骨粗鬆症も含めて-
講 師 兵庫医科大学 整形外科
助教授 楊 鴻生
問い合わせ先
敬誠会 合志病院 整形外科 富永浩司
Tel. 06-6488-1601

2004.11.20 (土)

会の名称 第6回 小牧整形外科病診連携の会
開催日 2004.11.20 (土)
開催場所 名古屋国際ホテル (名古屋市)
単 位 1
責任者 (代表) 森川整形外科医院 森川圭造
認定講演時間 17:00~18:00
演 題 「明日からできる最新の骨粗鬆症治療
-診断のポイントと治療の実際-」
講 師 養老整形外科 石井光一
問い合わせ先
森川整形外科医院内 小牧整形外科病診連携の会事務局 森川圭造
Tel. 0568-77-1739

2004.11.27 (土)

会の名称 第51回 神奈川リウマチ医会
開催日 2004.11.27 (土)
開催場所 鶴屋町フォーラム (横浜市)
単 位 2
責任者 (代表)
横浜市立大学医学部附属 市民総合医療センター
整形外科 三ツ木直人
時間・演題・講師 17:00 - 18:00
「リウマチ下肢障害の治療」
日本大学 医学部 整形外科 教授 龍 順之助
18:00~19:00
「関節リウマチ薬物療法の最新知見」
東邦大学医学部付属大森病院 膠原病科 教授 川合眞一
問い合わせ先
横浜市立大学医学部附属 市民総合医療センター
整形外科 三ツ木直人
Tel. 045-261-5656 (内線 2160)

2004.12.4 (土)

会の名称 田園調布 玉川地区 骨・関節を語る会
開催日 2004.12.4 (土)
開催場所 高輪プリンスホテル さくらタワー (港区)
単 位 1
責任者 (代表) 田園調布中央病院 整形外科部長 手塚正一
認定講演時間 17:10~18:10
演 題 「関節リウマチ治療の最近のながれ」
講 師 昭和大学 整形外科 客員教授 並木 脩
問い合わせ先
田園調布中央病院 整形外科部長 手塚正一
Tel. 03-3721-7121

2004.12.4 (土)

会の名称 田園調布 玉川地区 骨・関節を語る会
開催日 2004.12.4 (土)
開催場所 高輪プリンスホテル さくらタワー (港区)
単 位 1
責任者 (代表) 田園調布中央病院 整形外科部長 手塚正一
認定講演時間 17:10~18:10
演 題 「関節リウマチ治療の最近のながれ」
講 師 昭和大学 整形外科 客員教授 並木 脩
問い合わせ先
田園調布中央病院 整形外科部長 手塚正一
Tel. 03-3721-7121

日本リウマチ財団主催の教育研修会

※詳細は日本リウマチ財団のホームページ (URL <http://www.rheuma-net.or.jp/>) をご参照下さい。日本リウマチ財団 TEL.03-3946-3551

開催月日	地区	(単位数)	開催場所	申込先
10月17日(日)	滋賀	(6単位)	大津市 滋賀県立県民交流センター ピアザ淡海	松末 吉隆 滋賀医科大学整形外科教授
11月 7日(日)	佐賀	(6単位)	佐賀市 佐賀県医師会メディカルセンター	長澤 浩平 佐賀大学内科教授
11月28日(日)	秋田	(6単位)	秋田市 秋田県総合保健センター	井樋 栄二 秋田大学医学部整形外科教授
12月19日(日)	山梨	(6単位)	甲府市 甲府富士屋ホテル	浜田 良機 山梨大学医学部整形外科教授

日本リウマチ財団主催のケア研修会

※詳細は日本リウマチ財団のホームページ (URL <http://www.rheuma-net.or.jp/>) をご参照下さい。日本リウマチ財団 TEL.03-3946-3551

開催月日	開催場所	申込先
10月09日(土)	長崎ブリックホール3F 国際会議場	江口勝美長崎大学大学院医歯薬学総合研究科第一内科教授

日本リウマチ財団単位認定研修講演一覧

※詳細は日本リウマチ財団のホームページ (URL <http://www.rheuma-net.or.jp/>) をご参照下さい。日本リウマチ財団 TEL.03-3946-3551

開催月日	会の名称	開催場所
H16.09.17(金)	東総リウマチ研究会・鹿行リウマチ研究会(合同)	茨城県鹿島郡神栖町 鹿島セントラルホテル
H16.09.18(土)	第12回大阪関節疾患学術講演会	大阪府大阪市 ホテルグランヴィア大阪
H16.09.18(土)	第4回静岡リウマチ治療研究会	静岡県静岡市 静岡商工会議所 301,302会議室
H16.09.18(土)	第7回比較RAフォーラム	京都府京都市 ホテルグランヴィア京都 「古今の間」
H16.09.19(日)	第15回痛風研修会	東京都千代田区 中央大学 駿河台記念館2F281号室
H16.09.24(金) 25(土)	第13回日本シェーグレン症候群研究会ランチョンセミナー	佐賀県佐賀市 佐賀県医師会メディカルセンター
H16.09.24(金)	第13回日本シェーグレン症候群研究会	佐賀県佐賀市 佐賀県医師会メディカルセンター
H16.09.24(金)	新潟リウマチ薬物療法セミナー	新潟県新潟市 済生会新潟第二病院
H16.09.24(金)	第4回筑後骨粗鬆症研究会	福岡県久留米市 ルネッサンスホテル創世
H16.09.24(金) 25(土)	日本ハイパーサーミア学会第21回大会	京都府京都市 京都パークホテル
H16.09.24(金) 25(土)	第53回東日本整形災害外科学会学術集会	山形県山形市 山形国際交流プラザ (山形ビッグウィング)
H16.09.24(金) 25(土)	第18回日本靴医学会	愛媛県松山市 松山市総合コミュニティセンター
H16.09.24(金)	第19回富山県リウマチ性疾患研究会	富山県富山市 富山全日空ホテル
H16.09.25(土)	第24回東京都リウマチ膠原病懇話会	東京都中野区 中野サンプラザ
H16.09.25(土)	第18回神戸臨床リウマチ懇話会	兵庫県神戸市 生田神社会館
H16.09.25(土)	骨粗鬆症フォーラムイン奈良	奈良県奈良市 三井ガーデンホテル奈良
H16.09.25(土)	大阪臨床整形外科医会(第152回)	大阪府大阪市 ヒルトン大阪
H16.09.25(土)	第5回七隈整形外科懇話会	福岡県福岡市 シーホークホテル&リゾート 1Fナビス
H16.09.25(日)	第13回日本シェーグレン症候群研究会	佐賀県佐賀市 佐賀県医師会メディカルセンター
H16.09.29(水)	第5回南大阪リウマチ研究会	大阪府大阪市 リーガロイヤルホテル堺 3F「春慶」
H16.09.30(木)	第4回抗サイトカイン研究会	静岡県静岡市 ホテルセンチュリー静岡
H16.10.01(金)	第32回日本リウマチ・関節外科学会	三井ガーデンホテル奈良
H16.10.01(金)	第32回日本リウマチ・関節外科学会 イブニングセミナー	奈良県奈良市 なら100年会館・三井ガーデンホテル奈良

お知らせ

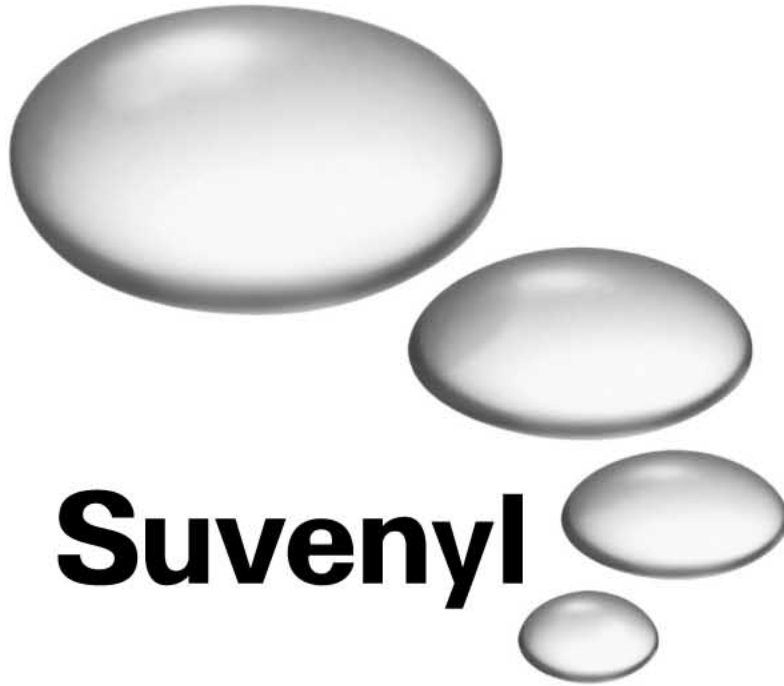
開催月日	会の名称	開催場所
H16.10.02(土)	第32回日本リウマチ・関節外科学会 モーニングセミナー	奈良県奈良市 なら100年会館・三井ガーデンホテル奈良
H16.10.02(土)	第32回日本リウマチ・関節外科学会 ランチョンセミナー	奈良県奈良市 なら100年会館・三井ガーデンホテル奈良
H16.10.02(土)	第32回日本リウマチ・関節外科学会	奈良県奈良市 なら100年会館・三井ガーデンホテル奈良
H16.10.01(金)	メディカルフォーラム in Sapporo	北海道札幌市 札幌プリンスホテル
H16.10.02(土)	第14回千葉膠原病セミナー	千葉県千葉市 京成ホテルミラアーレ
H16.10.02(土)	第9回北海道臨床リウマチフォーラム	北海道札幌市 京王プラザホテル札幌
H16.10.08(金)	第15回熊本リウマチ研究会	熊本県熊本市 ホテル日航熊本
H16.10.09(土)	第1回城東RA Conference	東京都台東区 浅草ビューホテル
H16.10.10(日)	第31回日本臨床整形外科医会研修会	北海道札幌市 札幌パークホテル
H16.10.10(日)	第3回日本リウマチ実地医会	神奈川県横浜市 横浜ロイヤルパークホテル
H16.10.12(火)	第12回長崎骨粗鬆症研究会	長崎県長崎市 ウェルシティ長崎厚生年金会館
H16.10.14(木)	第13回東北リウマチ研究会	長崎県佐世保市 佐世保シティホテル
H16.10.15(金)	第11回鳥取膠原病症例検討会	鳥取県米子市 米子全日空ホテル
H16.10.16(土)	東三河リウマチ研究会学術講演会	愛知県豊橋市 ホテルアソシア豊橋
H16.10.16(土)	オステオポローシスセミナー	岐阜県岐阜市 岐阜ルネッサンスホテル
H16.10.16(土)	第3回東信リウマチ研究会	長野県小諸市 小諸グランドキャッスルホテル
H16.10.22(金)	第2回新潟尿酸代謝フォーラム	新潟県新潟市 有壬記念館
H16.10.23(土)	第9回くにびき整形外科セミナー	島根県松江市 ホテル一畑
H16.10.23(土)	第2回リウマチフォーラム北河内	大阪府守口市 守口ロイヤルパインズホテル
H16.10.23(土)	大阪臨床整形外科医会研修会 (第153回)	大阪府大阪市 ヒルトン大阪
H16.10.23(土)	第12回岡山整形外科研究会	岡山県岡山市 岡山プラザホテル
H16.10.23(土)	備後整形外科医会	広島県福山市 ウェルサンピア福山
H16.10.23(土)	第3回鳥取県東部リウマチ膠原病研究会	鳥取県鳥取市 ホテルニューオータニ鳥取
H16.10.26(火)	第11回久留米リウマチ膠原病研究会	福岡県久留米市 久留米萃香園ホテル
H16.10.28(土)	第1回島根東部リウマチセミナー	島根県松江市 ホテル一畑
H16.10.28(木)	阪神リウマチ治療研究会	兵庫県尼崎市 ホテルニューアルカイク
H16.10.28(木)	平塚市医師会内科部会・整形外科部会講演会	神奈川県平塚市 ホテルサンライフガーデン
H16.10.29(金)	第11回岩手県自己免疫疾患研究会	岩手県盛岡市 ホテル東日本 3F鳳凰の間
H16.10.29(金)	第19回沖縄リウマチ・膠原病懇話会	沖縄県那覇市 ザ・ナハテラスホテル
H16.10.30(土)	第16回兵庫県リウマチ登録医の会	兵庫県神戸市 ラッセホール
H16.10.30(土)	第8回新潟リウマチ医の会	新潟県新潟市 新潟大学医学部第2講義室
H16.10.30(土)	第49回東海関節外科研究会	愛知県名古屋市中日パレスクラウンホール
H16.10.30(土)	第2回びわこリウマチと免疫セミナー	滋賀県草津市 ホテルボストンプラザ草津
H16.10.30(土)	神奈川県臨床整形外科医会学術講演会	神奈川県横浜市 横浜ロイヤルパークホテル
H16.10.30(土)	福井県整形外科医会研修会	福井県福井市 ユアーズホテルフクイ 松の間
H16.10.31(日)	第15回中国・四国リウマチ医の会	高知県高知市 高知市文化プラザかるぼーと
H16.11.04(木)	第54回北九州筑豊リウマチ懇話会	福岡県北九州市 リーガロイヤルホテル小倉
H16.11.05(金) 06(土)	第103回中部日本整形外科災害外科学会	兵庫県神戸市 神戸国際会議場
H16.11.05(金)	第4回リウマチ性疾患と骨粗鬆症治療研究会	熊本県熊本市 アークホテル熊本
H16.11.06(土)	第8回道東リウマチ・膠原病懇話会 (講演会)	北海道帯広市 帯広グランドホテルB1F ゴールデンホール
H16.11.06(土)	第10回茨城リウマチ	茨城県つくば市 つくば国際会議場
H16.11.09(火)	北九州骨・関節セミナー	福岡県北九州市 リーガロイヤルホテル小倉

開催月日	会の名称	開催場所
H16.11.10(水)	第19回城北リウマチ研究会	東京都板橋区 帝京大学附属病院第一会議室
H16.11.10(水)	宮崎骨粗鬆症セミナー	宮崎県宮崎市 ホテルJALシティ宮崎
H16.11.11(木)	第3回臨床リウマチUpdate	大阪府大阪市 スイスホテル南海大阪
H16.11.11(木)	骨粗鬆症学術講演会	高知県高知市 高知パレスホテル本館2F ミューズ
H16.11.12(金)	第15回熊本リウマチセミナー	熊本県熊本市 ホテルニューオオタニ熊本
H16.11.12(金)	第8回OMIYA FORUM ON RHEUMATOID ARTHRITIS	埼玉県さいたま市 パレスホテル大宮
H16.11.12(金)	第37回富山リウマチと免疫研究会	富山県富山市 富山第一ホテル
H16.11.12(金)	第1回東葛リウマチ医会	千葉県柏市 ホテルサンガーデン柏 彩雲の間
H16.11.13(土)	第34回多摩リウマチ研究会	東京都武蔵野市 吉祥寺東急イン
H16.11.13(土)	第15回日本リウマチ学会 中国・四国支部学術集会 ランチョンセミナー	岡山県岡山市 おかやま三光荘
H16.11.13(土)	第15回日本リウマチ学会 中国・四国支部学術集会	岡山県岡山市 おかやま三光荘
H16.11.13(土)	第12回香川オステオポーローシス研究会	香川県高松市 ロイヤルパークホテル高松
H16.11.15(月)	第11回京都運動器疾患フォーラム	京都府京都市 ウェスティン都ホテル京都
H16.11.17(水)	勝浦市夷隅郡医師会学術講演会	千葉県夷隅郡大原町 勝浦市夷隅郡医師会
H16.11.17(水)	第11回長崎大腿骨頸部骨折研究会	長崎県長崎市 長崎プリンスホテル
H16.11.17(水)	道南関節リウマチ・膠原病懇話会(講演会)	北海道函館市 函館ロイヤルホテル 2Fクラウンホール
H16.11.18(木)	第10回阪神リウマチセミナー	兵庫県西宮市 ノボテル甲子園
H16.11.18(木)	東海炎症研究会	愛知県名古屋市 名古屋観光ホテル
H16.11.18(木)	第3回南総リウマチ研究会	千葉県館山市 たてやま夕日海岸ホテル
H16.11.18(木)	第2回骨粗鬆症セミナー	栃木県宇都宮市 ホテル東日本宇都宮 羽衣の間
H16.11.18(木)	第8回埼玉県北部リウマチ研究会	埼玉県熊谷市 ホテルサンルート熊谷
H16.11.18(木)	第7回大田区リウマチ・膠原病研究会	東京都大田区 東邦大学臨床講堂
H16.11.20(土)	第6回ステロイド治療研究会	東京都千代田区 経団連会館クリスタルルーム
H16.11.20(土)	兵庫医大整形外科開業医会(第4回)	大阪府大阪市 ホテルグランヴィア大阪
H16.11.20(土)	第381回岩手整形災害外科懇談会	岩手県盛岡市 岩手医科大学附属 循環器医療センター8F研修室
H16.11.20(土)	第130回広島県臨床整形外科医会研修講演会	広島県広島市 広島医師会館
H16.11.20(土)	第7回桜リウマチ研究会	東京都豊島区 ホテルメトロポリタン
H16.11.20(土)	群馬リウマチ関節外科研究会	群馬県高崎市 ビエント高崎
H16.11.24(水)	千葉骨粗鬆症シンポジウム	千葉県千葉市 京成ホテルミラマール
H16.11.26(金)	第23回瑞穂卒後研修セミナー	愛知県名古屋市 ウェスティンナゴヤキャッスルホテル
H16.11.26(金)	第62回福岡リウマチ懇話会	福岡県福岡市 三鷹ホール
H16.11.27(土)	第51回神奈川リウマチ医会	神奈川県横浜市 鶴屋町フォーラム
H16.11.27(土)	尼崎市整形外科医会講演会	兵庫県尼崎市 ホテルニューアルカイック
H16.11.27(土)	第2回岩手リウマチ医研究会	岩手県盛岡市 ホテルニューカーリーナ
H16.12.02(木)	第12回大分人工関節研究会	大分県大分市 大分東洋ホテル
H16.12.02(木)	第22回東濃リウマチ性疾患研究会	岐阜県多治見市 まなびパークたじみ
H16.12.03(金)	三酒整形医会	三重県四日市市 四日市都ホテル
H16.12.04(土)	第5回藤田リウマチカンファレンス	愛知県豊明市 藤田保健衛生大学外来棟503号
H16.12.05(日)	第6回 Latest Orthopedics 研究会	兵庫県神戸市 生田神社会館
H16.12.10(金) 11(土)	第14回日本リウマチ学会北海道・東北支部学術集会	秋田県秋田市 秋田県総合保健センター
H16.12.11(土) 12(日)	第16回中之島リウマチセミナー	大阪府大阪市 大阪国際会議場
H16.12.16(木)	第41回山口県リウマチ・膠原病(YRC)研究会	山口県宇部市 宇部全日空ホテル



中外製薬

Roche ロシュグループ



Suvenyl

関節機能改善剤
指定医薬品

薬価基準収載

スベニール® ディスポ
バイアル
Suvenyl® ヒアルロン酸ナトリウム関節内注射液

※「効能・効果」、「用法・用量」、「用法・用量に関連する使用上の注意」、「禁忌」、「使用上の注意」等については最新の添付文書をご参照ください。

〔資料請求先〕
製造発売元 **中外製薬株式会社**
〒104-8301 東京都中央区京橋2-1-9



骨粗鬆症治療剤

薬価基準収載

ボナロン[®]錠 5mg

<アレンドロン酸ナトリウム 水和物 錠>

劇薬・指定医薬品・要指示医薬品 (注意：医師等の処方せん・指示により使用すること)

※ 効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。

商標 **ボナロン/Bonalon** is the registered trademark of Merck & Co., Inc., Whitehouse Station, NJ, USA.

製造・販売元

TEIJIN 帝人ファーマ株式会社

資料請求先：学術情報部

〒100-8585 東京都千代田区内幸町2-1-1

BNT027 (KK) 0308改3 2003年8月作成

(中)日本リウマチ学会の英文誌 (Modern Rheumatology) 投稿・発行規定 (2003年12月1日改訂)

目的と内容

Modern Rheumatologyはリウマチ学および病理学、生理学、臨床免疫学、微生物学、生化学、実験動物学、薬理学等の関連分野におけるオリジナル論文を英文で掲載する。

症例報告および広く読者に関心を持たれるテーマに関する綜説も受け付ける。また、内容が独創的かつ明快で、科学的価値の高い小論文も掲載を考慮する。

LetterはModern Rheumatologyの既掲載論文およびリウマチ学、有限責任中間法人日本リウマチ学会に関する事項に対するコメントに限る。速報は症例または研究上の知見に関するごく短い報告とし、抄録は付けない。

その他の記事も編集委員会の判断により掲載する。

論文は本学会の会員を問わず受け付ける。

年6号発行する。原稿は電子メールで、常時受け付ける。

投稿条件

著者は、提出論文の内容のいかなる部分も未出版であること(ただし、抄録の形式で、または出版物になった講義、解説記事、学位論文の一部は可とする)、また、他の出版物への掲載予定のないことを誓約しなければならない。他の著作物からの直接引用や図表を含めざるをえない場合には、それらの著者と著作権保持者からの英文での使用許可を提出論文に添付する。

提出論文が査読後受理された場合、その著作権を有限責任中間法人日本リウマチ学会とシュプリンガー・フェアラーク東京㈱に自動的に譲渡すること、また論文あるいはその一部が言語の如何を問わず、著作権保持者の許可なく他の出版物に掲載されないことを誓約する。

論文の著者及び共著者は、投稿原稿が他で一切発表されていないことを誓約する文書を、全員署名の上、提出する。

原稿形式

原稿は英文で記述し、抄録、本文、謝辞、文献、図説、表を含めA4サイズにダブルスペースで作成する。各パートは改頁し、前記の順に原稿ナンバーをつける。

英文は英語を母国語とする研究者が読んで正確に理解できるものであること。校閲者から英文の改善を求められた場合は、英語を母国語とし関連分野に詳しい者の校閲を受けること。この場合、編集委員会が斡旋する人の校閲を受けることが出来る。ただし、その費用は著者負担とする。

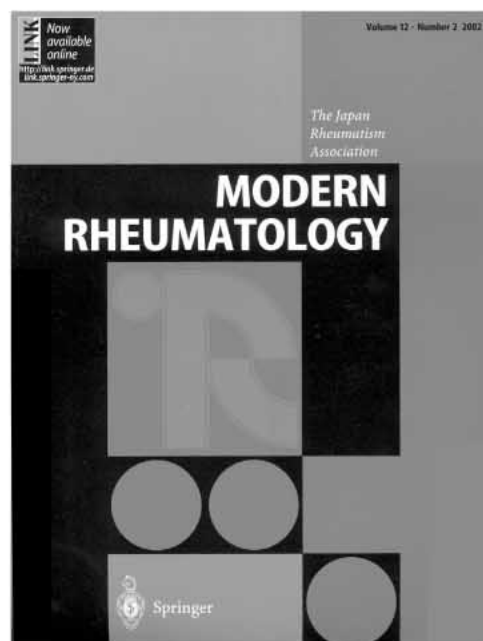
標準的な略語や単位を使用する。略語は初出の際にスペルアウトする。略語は標題では使用しない。薬品や化学物質は一般名を使用する。

掲載論文の原稿は返却しない。

原稿枚数

原著および綜説は、30枚以内とする。(抄録、文献、図表を含む)。症例は、文献を含め20枚以内とする。(抄録、文献、図表を含む)。図表は1点につき原稿1枚と換算する。

刷り上りが16ページを越えた場合には、その費用を請求される。



Letterおよび速報は文献を含め4枚以内とし、抄録は付さない。

表紙

表紙には、論文の種類(原著、症例等)、標題、全著者名、著者の所属とその住所、本文枚数、図説、図表の点数を記載する。さらに、5語までのキーワード(アルファベット順に)、連絡先となる著者名や住所・電話番号・ファックス番号・e-mailアドレス、必要があれば編集委員会へのコメントを記載する。

抄録

原著は、目的、方法、結果、結論を200語以内で簡潔に記述する。

症例、綜説は各々75語、200語以内とする。

抄録中に小見出しは付けない。

本文

実験的な内容の論文については、Introduction, Materials and Methods, Results, Discussionの構成で記述する。

表

表は本文中で引用され、アラビア数字で出現順に番号を付ける。各表は個々に改頁し、簡潔な題をつける。表中で使われている主要な略語を表の脚注で説明する。

図

図は本文中で引用され、アラビア数字で出現順に番号を付ける。各図には簡潔な図説を付ける。図説は本文の後に、図とは別に一括して記載する。

図はコラムの幅(8.6cm)または印刷領域(17.6×23.6cm)に合わせた大きさにする。組み合わせの図は、印刷領域を越えない範囲(図説も考慮する)でまとめる。その際図番号を明記する。

カラー図は受け付けるが、著者はその費用を請求される(カラーページ1ページ目¥110,000、2ページ目以降は1ページ当たり¥60,000)。カラー図はカラー、白黒いずれでの印刷を希望するか表紙に記載する。

図や写真の電子画像送信も論文のオンライン審査用に受け付けるが、著者は掲載通知を受理後、各号に掲載されている出版社の電子投稿のスペックに従い、出版用の電子画像を提出する。

<線画>最終的に印刷を希望する大きさと鮮明であること。

文字は明瞭で読みやすくする。

＜ハーフトーン図（写真を含む）＞適切なコントラストで、的確な角度と最終的な印刷サイズで提出する。

光学顕微鏡写真の場合、図説中に染色法を示す。電子顕微鏡写真は寸法を示すために写真中にバーを入れ、図説中でそのバーの数値と単位を示す。

文 献

文献はアルファベット順ではなく、本文中での出現順に番号付ける。文献データは、著者の責任をもって、正確に記載する。

私信や未出版データは文献リストに含めるべきではないが、本文中に括弧付きで引用することができる。（例：A, Aoki 1999 personal communication）それが他者のものである場合は、直接の引用を認める著者の署名入り手紙を提出する。

他誌で掲載受理されていて未出版の論文は文献リストに含めることはできるが、括弧付きで “In press” と記載する。

文献リストには、引用該当ページおよび最初の6人までの著者名を、それを超える場合は “et al” を付す。雑誌名は Index Medicus に準じる。日本語で書かれた論文は、例2の形式による。文献は本文中では上付き文字で引用する：

〔例〕Ames et al. 1 reported...

〔雑 誌〕

1. Ames PRJ, Lupoli S, Alves J, Atsumi T, Edwards C, Iannaccone L, et al. The coagulation/fibrinolysis balance in systemic sclerosis: evidence for hematological stress syndrome. *Br J Rheumatol* 1997; 36: 1045-50.

2. Kamihara S. Case of Sjogren syndrome associated with idiopathic monoclonal IgA rheumatoid factor and pyroglobulinemia (in Japanese). *Rinsho Ketsueki*. In press.

〔単行本〕

3. Cassidy JT. Systemic lupus erythematosus, juvenile

dermatomyositis, scleroderma, and vasculitis. In: Kelly WN, Harris ED Jr, Ruddy S, Sledge CB, editors. *Textbook of rheumatology*. 5th ed. Philadelphia: WB Saunders; 1997. p. 1241-64.

〔Proceeding〕

4. Bengtsson S, Solheim BG. Enforcement of data protection, privacy and security in medical informatics. In: Lun KC, Degoulet P, Piemme TE, Rienhoff O, editors. *MEDINFO 92. Proceedings of the 7th World Congress on Medical Informatics*; 1992 Sep 6-10; Geneva, Switzerland. Amsterdam: North-Holland; 1992. p.1561-5.

別 刷

著者には別刷30部を無料で提供する。それ以上の部数が必要な場合には、100部までは50部単位で、100部以上は100部単位で注文を受け付ける。

論文審査

提出された論文は、少なくとも2人のレフリーと編集委員により審査され、必要な場合には言語および内容について訂正を求める。編集委員は論文の採否および掲載順序を決定する。

著者は、論文の訂正と再提出を求められた場合、2ヵ月以内に応じられない場合は、掲載を辞退したものと見なされる。

原稿送付先および問い合わせ先

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1丁目1番24

オカモトヤビル9階

有限責任中間法人 日本リウマチ学会

Modern Rheumatology編集委員会

Tel 03-5251-5353 Fax 03-5251-5354

Email: MR@ryumachi-jp.com

MR編集委員長からのお願い

有限責任中間法人日本リウマチ学会の英文誌Modern Rheumatology (MR) は、インパクトファクターをつけることを目指しています。紙媒体ではなかなか引用されにくい状況を考慮いたしまして、過去5年間に掲載されたMRへの論文abstractsを全て学会ホームページに掲載いたしました。

学会ホームページのトップ頁にある「会員の頁」をクリックして、「会員の頁」に入ります。「学会誌・刊行物」をクリックしますと、「Modern Rheumatology」のバックナンバーの一覧と各年のkey-words indexとauthors index一覧がご覧いただけますので、論文を書く際は出来る限り、Modern Rheumatologyから引用していただくよう会員の皆様にお問い合わせ申し上げます。

Modern Rheumatology 編集委員長 宮坂信之



●情報化委員会 澤井高志(担当理事)
天野宏一(ニュースレター委員長)／(委員) 諏訪 昭・中島亜矢子・田中真希

ニュースレター 2004年・第3号 発行日2004年9月15日
発行者 有限責任中間法人 日本リウマチ学会
〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-1-24 オカモトヤビル9F
TEL.03-5251-5353 FAX.03-5251-5354
E-mail gakkaim@ryumachi-jp.com URL http://www.ryumachi-jp.com
デザイン・制作 クリエイトM2 〒101-0065 東京都千代田区西神田2-7-5
TEL.03-5215-6560 FAX.03-5215-6560 E-mail creat-m2@sea.plala.or.jp
印刷社 山下印刷(有) 〒105-0003 東京都港区西新橋1-21-4
TEL.03-3591-1025 FAX.03-3591-0846

※本書の無断複写、複製及び転載を禁じます。

Santen



Together

抗リウマチ剤

薬価基準収載

創薬、指定医薬品、要指示医薬品

(注意—医師等の処方せん・指示により使用すること)

新発売

メトレート錠2mg
Metolate® tablets 2mg

メトトレキサート錠

■(効能・効果)、(用法・用量)、(警告、禁忌を含む使用上の注意)等については、添付文書をご参照下さい。

抗リウマチ剤

薬価基準収載

創薬、指定医薬品

リマチル錠100mg
Rimatil® tablets 100mg

フシラミン100mg錠

創薬、指定医薬品

リマチル錠50mg
Rimatil® tablets 50mg

フシラミン50mg錠

■(効能・効果)、(用法・用量)、(禁忌、原則禁忌を含む使用上の注意)等については、添付文書をご参照下さい。

抗リウマチ剤

薬価基準収載

指定医薬品、要指示医薬品 (注意—医師等の処方せん・指示により使用すること)

アザルフィジンEN錠
Azulfidine® EN tablets

サラゾスルファピリジン500mg腸溶錠

指定医薬品、要指示医薬品 (注意—医師等の処方せん・指示により使用すること)

アザルフィジンEN錠250mg
Azulfidine® EN tablets 250mg

サラゾスルファピリジン250mg腸溶錠

■(効能・効果)、(用法・用量)、(禁忌を含む使用上の注意)等については、添付文書をご参照下さい。

製造発売元
S 参天製薬株式会社
大阪市東淀川区下新庄3-9-19
資料請求先 医薬事業部 医薬情報室

発売元
S 参天製薬株式会社
大阪市東淀川区下新庄3-9-19
資料請求先 医薬事業部 医薬情報室

製造元
Pfizer ファイザー株式会社
東京都港区代々木3-22-7

2004年7月作成
3MTL04GA4

関節リウマチ(小関節)の 腫脹・疼痛に

経皮複合消炎剤 **モビラート[®]** 軟膏



〔禁忌(次の患者には使用しないこと)〕

- (1) 出血性血液疾患(血友病、血小板減少症、紫斑病等)のある患者〔本剤に含まれるヘパリン類似物質は血液凝固抑制作用を有し、出血を助長するおそれがある〕
- (2) 僅少な出血でも重大な結果を来すことが予想される患者〔本剤に含まれるヘパリン類似物質は血液凝固抑制作用を有し、出血を助長するおそれがある〕
- (3) サリチル酸に対し過敏症の既往歴のある患者

〔効能・効果〕

変形性関節症(深部関節を除く)、関節リウマチによる小関節の腫脹・疼痛の緩解、筋・筋膜性腰痛、肩関節周囲炎、腱・腱鞘・腱周囲炎、外傷後の疼痛・腫脹・血腫

〔用法・用量〕

通常、1日1～数回適量を塗擦又はガーゼ等にのぼして貼付する。
症状により密封法を行う。

〔使用上の注意〕

1. 副作用

総投与症例3133例中、24例(0.77%)に副作用が認められ、主なものは発赤7件(0.22%)、痒疹7件(0.22%)、発疹7件(0.22%)、皮膚炎7件(0.22%)、皮膚刺激2件(0.06%)等であった。(再評価結果)

その他の副作用

	0.1～5%未満	0.1%未満
過敏症 ^{注)}	発赤、痒疹、発疹、皮膚炎	皮膚刺激等

注) 症状があらわれた場合には使用を中止すること。

2. 適用上の注意

投与部位：潰瘍、びらん面への直接塗擦を避けること。
眼には使用しないこと。

〔包装〕

チューブ：10g、50g、10g×10、25g×10、25g×40
50g×10、50g×40

●詳細は添付文書をご参照ください。

製造販売 **maruho** マルホ株式会社

〔資料請求先〕

大阪市北区中津1-5-22 〒531-0071

(2004.6作成)

血清中の抗ガラクトース欠損IgG抗体測定用医薬品

[検体検査実施料収載]

日本標準商品分類番号 877449

ピコルミ[®] CA・RF

体外診断用医薬品

承認番号 21100AMZ00670000

〈電気化学発光免疫測定法—ECLIA法〉




RAの早期診断補助に

【特性】

- 1 早期RA患者において、従来のリウマトイド因子(RF)測定法に比較し、優れた陽性率です。
- 2 従来のRF測定法で陰性のセロネガティブRA患者でも陽性率が高く有用です。
- 3 RA患者の症状改善、悪化に伴い従来法に比べて測定値が有意に変動します。
- 4 ピコルミCA・RFは自動測定が可能であり、広い測定レンジ(1~500AU/mL)を短い時間(反応時間約20分)で測定できます。
- 5 ピコルミCA・RFはエイテストCA・RF(EIA法)と良く相関します。

※効能・効果、操作法、使用上の注意については添付文書をご参照下さい。

製造発売元  **三光純薬株式会社**
東京都千代田区岩本町1-10-6

提携  **エーザイ株式会社**
東京都文京区小石川4-6-10

[検体検査実施料収載]

日本標準商品分類番号 877449

体外診断用医薬品

承認番号 21100AMZ00542000

間質性肺炎に特異性の高い 血清マーカー

KL-6

血清中シアル化糖鎖抗原KL-6測定用医薬品

ピコルミ[®] KL-6 Picolumi[®] KL-6

〈電気化学発光免疫測定法〉

特性

1. 間質性肺炎に特異性が高く、他疾患との鑑別診断に優れます。
2. 活動性の間質性肺炎では、非活動性に比べ高値に分布します。
3. 間質性肺炎の症状改善、悪化に伴い有意に測定値が変動します。
4. ピコルミKL-6は自動測定が可能であり、1回の測定で広い測定レンジ(51~10200U/mL)を短い時間(反応時間約20分)で測定できます。
5. ピコルミKL-6は、エイテストKL-6(EIA法)と良く相関します。

※効能・効果、操作法、使用上の注意については添付文書をご参照下さい。



製造発売元  **三光純薬株式会社**
東京都千代田区岩本町1-10-6

提携  **エーザイ株式会社**
東京都文京区小石川4-6-10

資料請求先：三光純薬株式会社 薬事学術部 〒101-0032 東京都千代田区岩本町1-10-6 エーザイ株式会社 診断薬部 〒112-8088 東京都文京区小石川5-5-5

2001年1月作成
KL01.01-1



持続性抗炎症・鎮痛剤 《ナブメトン錠》

指定医薬品
レリフエン[®]錠
 RELIFEN[®] 400 薬価基準収載

※効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意につきましては添付文書をご参照ください。

製造販売元
株式会社 三和化学研究所
 SKK 本社/名古屋市東区東外通町35番地 〒461-8631
 ●ホームページ <http://www.skk-net.com/>
 提携 **グラクソ・スミスクライン株式会社**

資料請求先・問い合わせ先
 コンタクトセンター
0120-19-8130
受付時間 月～金 9:00～17:00(祝日は除く)

2003年7月作成



経験+誠意=大きな信頼

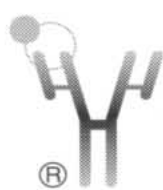
トータル・プランナー

- 医学専門誌・抄録・プログラム・名簿等の広告取扱い及び企画作製
- 広告・パンフレット等の企画・制作
- 医学会情報・各種医学関連統計データの提供
- 学術研究論文の投稿代行

Medical Advertising Agency
日本医学広告社

〒102-0071 東京都千代田区富士見 2-12-8
 TEL.03-5226-2791(代表) FAX.03-5226-0195
 E-mail: info@j-m-a.co.jp
 URL: <http://www.j-m-a.co.jp>

REMICADE



抗ヒトTNF α モノクローナル抗体製剤

薬価基準収載

レミケード®点滴静注用100

REMICADE® for I.V. Infusion100

インフリキシマブ(遺伝子組換え)製剤

生物由来製品 劇薬 指定医薬品 要指示医薬品^注 注意-医師等の処方せん・指示により使用すること

※ 効能・効果、用法・用量、警告・禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。



輸入販売元(資料請求先)

田辺製薬株式会社

〒541-8505 大阪市中央区道修町3丁目2番10号
<http://www.tanabe.co.jp/>



製造元

Centocor

マルバーン/ペンシルバニア州(アメリカ)

2004年6月作成

CONTENTS

- 巻頭言 法人化後1年の歩みと今後の展望——越智 隆弘…1
- 第49回日本リウマチ学会総会・学術集会(JCR)
第14回国際リウマチシンポジウム(IRC)——西岡久寿樹…2～5
- EULAR大会に出席して
亀田 秀人／池田 啓／西岡久寿樹…6～8
- コラム
子どもに吹く風～小児リウマチの昨今——横田 俊平…9
- 学術集会のあり方
日本整形外科学会学術総会における試み——国分 正一…10
- EAGOR開催のお知らせ——原 まさ子…11
- お知らせ……………12・27
社員総会議事録／各委員会報告／指導医・専門医の認定更新に関するお知らせ／平成17年度リウマチ登録医募集のお知らせ／2004年度日本リウマチ学会「教育施設」：第16次認定／2004年度日本リウマチ学会「教育施設」第13次資格更新施設／リウマチ指導医名簿／日本リウマチ学会支部学術集会／2004年度日本リウマチ学会が認定した教育研修会又は講演会／日本リウマチ財団主催の教育研修会／日本リウマチ財団主催のケア研修会／日本リウマチ財団単位認定研修講演一覧
- 英文学会 Modern Rheumatology (MR) 誌投稿・発行規定…30・31
- MR編集委員長からのお願い——宮坂 信之…31

有限責任中間法人

日本リウマチ学会

発行者／有限責任中間法人 日本リウマチ学会

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-1-24 オカモトヤビル9F

TEL.03-5251-5353 FAX.03-5251-5354

E-mail gakkaim@ryumachi-jp.com URL <http://www.ryumachi-jp.com>